麻原彰晃の
真理探究シリーズ②

能力開発の秘密に迫る！

チァクラの科学

真理科学技術研究所編
真理の御魂（みたま） 最聖 麻原彰晃尊師 監修

SCIENCE OF CHAKRA

はじめに

神秘の光輪——チァクラ。皆さんはこの存在をご存じだろうか。

それは、あなたの身体に潜む霊的センターであり、あらゆる才能を生み出し、超能力を司り、あなたを広大無辺な異次元世界へいざなう〝神々への扉〟である。そして、あなたを超人に変え、至福をもたらし、大宇宙の根源を体得させてくれる。それがチャクラである。

数千年以上にもわたって世界中の宗教が最奥義に秘してきた、目には見えないこのチァクラの存在を科学の目がついにとらえた。オウム真理教真理科学技術研究所の研究成果によって、チァクラの存在が世界で初めて明かされたのである。

かつて、このチァクラの存在は、非科学的なマガイモノとみられていた。しかし、その存在が科学の力によって証明された今、もはやチァクラの存在は非科学的とはいえない。もちろん、科学の転換期には様々な障害がつきまとう。電磁波の例を挙げるなら、以前はその存在を疑う者が多かった。しかし、現在においては、その存在が目に見えないにもかかわらず、だれもが確信を持っている。それと同じで、チァクラについても、わたしたちが通常自分の体について、ここに心臓がある、脳があるなどと認識しているのとまったく同じレベルでチァクラを認識できる時代が来るに違いない。

これまで、一般に科学は宗教と相反するものとみなされていたが、その宗教の世界、神秘世界が次々と科学によって解明されて

いっている今、もはや科学は宗教を駆逐するものではなくなった。むしろ、宗教を擁護し、その正当性を支持するもの、つまり、「科学」は、宗教が明かす世界観を証明する手段へと変化したのである。

この「真理探究」シリーズはあなたに、宗教と科学とのダイナミックな融合を実感させ、今まで摩訶不思議だと思われていたものが、日常のごく当たり前のことであることを気づかせるだろう。そして、この世界観の転換は実に魅惑的であり、荒廃した現代に光を灯し、あなたを希望に満ちた世界へといざなってくれるだろう。

本書は、まず第1章で、チャクラの存在の科学的検証を取り上げる。これは、93年の2月から3月にかけて、ロシアのテレビ局「ツー・バイ・ツー」で放映された番組を基として構成されている。この内容は、読者の知性を刺激し、チャクラの存在を疑いのない、確固なものとしてくれるだろう。

そして、チャクラの開発で具体的にどのような能力が得られるのかについて、第2章で体験談を掲載しているので、そちらを参照していただきたい。そして具体的な開発方法やチャクラに関する詳しい説明については、以下の文献を参照していただきたい。本書と併せて読まれれば、より理解も深まり、成果を得るうえで大きな利益になるだろう。

「超能力秘密の開発法」
「超能力秘密のカリキュラム」
「生死を超える」

「古代エジプトの秘儀を解く」
(いずれも真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著)

さあ、次に能力を開発するのは、あなただ。

真理科学技術研究所・編

麻原彰晃の
真理探究シリーズ②

能力開発の秘密に迫る！
チァクラの科学

CONTENTS

はじめに …… 2

第1章　真理探求 チァクラの科学的検証 … 7
1．真理探究について …… 8

2．チァクラの科学的検証 Part 1 …… 11
対談

3．チァクラの科学的検証Part2 …… 35
尊師説法　光のスポーク――チァクラ
対談

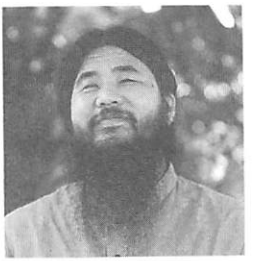
4．チァクラの科学的検証Part3 …… 55
尊師説法　意識の上昇と六神通
対談

5．チァクラの科学的検証Part4 …… 73
尊師説法　電場とチァクラ
対談

6．チァクラの科学的検証Part5 …… 87
尊師説法 文明をつくり出す2つの要素
対談

7．チァクラの科学的検証Part6 …… 103
尊師説法　魂の進化とチァクラの関係
対談

第2章　チァクラの開発によって
わたしはこう変わった …… 119
体験談



第1章
真理探究 チァクラの科学的検証

「真理探究」について

今、ロシアの宗教界に大きな波紋を投げかけているのが、オウム真理教の話題のテレビ番組、「Постижение Истины（パスティジイエニィエ イースティヌゥイ）(真理探究)」。この番組は92年の11月から、モスクワ近郊約2000万人に向けて、ロシアのテレビ局「ツー・バイ・ツー」で放映され、白ロシア共和国やモルドバ共和国でも放送されています。毎回、解脱者の奇跡、スーパーパワーを科学的に証明した実験などを紹介し、これについて麻原尊師と科学者でもある弟子たちが話を進めていく対談形式の番組です。

本書「麻原彰晃の真理探究シリーズ」は、このモスクワで大人気のテレビ番組を基に作成されました。人気の理由は、修行によって到達できる〝解脱〟という特別な状態を科学的に証明しきっているという点にあるようです。

出演者プロフィール

真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師

国内のみならず、広く海外に支部を持つオウム真理教の開祖。仏教・ヨーガによって様々な神秘的力を身につけられ、1986年、ヒマラヤで最終解脱を果たされた。その後、すべての魂の救済を目的として、オウム真理教を設立。その比類なきステージの高さには、チベット仏教の政治的･宗教的指導者であられるダライ･ラマをはじめとして、チベット仏教の高僧やインドで〝聖者〟と呼ばれるヨーガの成就者たち、そして、その他の仏教の聖者方も絶

賛している。また、執筆活動や音楽活動、さらにはオペレッタの総指揮を務めるなど、その才能は多岐にわたっている。

聖者マンジュシュリー・ミトラ智徳成就者

大阪大学大学院理学研究科物理修士課程修了。宇宙物理学を専攻。その後航空機関係の研究・開発に携わる。90年の夏に仏教でいうところの阿羅漢の境地に到達。現在、真理科学技術研究所所長。その幅広い知識と修行者としての資質には、周囲から高い定評がある。

なお、真理科学技術研究所では、仏教・ヨーガ理論と現代科学との融合によって、人々に真の恩恵をもたらすための研究が日夜行なわれている。

聖者ヴァジラティッサ到達光師

京都府立医科大学卒業後、大阪鉄道病院消化器内科勤務。90年7月、クンダリニー・ヨーガを成就。現在、オウム真理教附属医院顧問。

聖者サンジャヤ上流師

早稲田大学大学院理工学研究科修了。物性物理学、特に超伝導を専攻。90年の秋にクンダリニー・ヨーガを成就。

豊田　亨（とよだ　とおる）

東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。理論物理学、特に素粒子論を専攻。

松原俊一郎（まつばら　しゅんいちろう）
この番組の司会者。東京大学文学部でインド哲学を専攻。

＊出演者の称号に関しては、番組収録当時のままで掲載いたしました。

第1章　チャクラの科学的検証 Part1

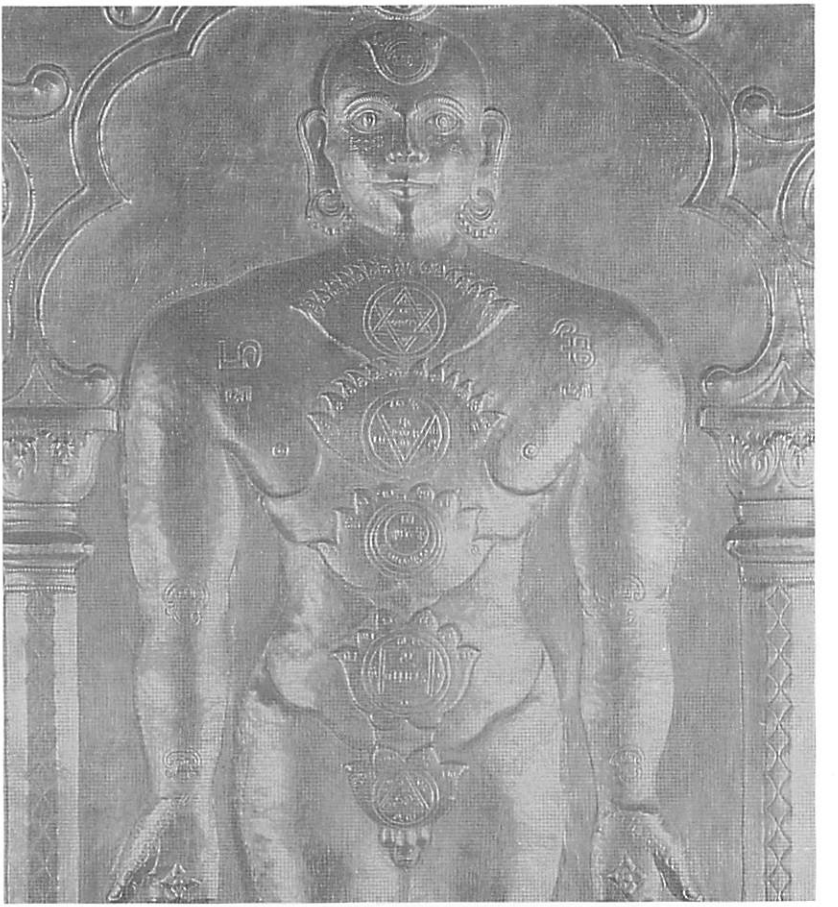
世界各地に伝わる人体図。ところで、お気づきでしょうか。これらの人体図には、医学的・解剖学的には存在しないはずのものが描かれているのです。

そして、そこに存在する見事なまでの共通性。

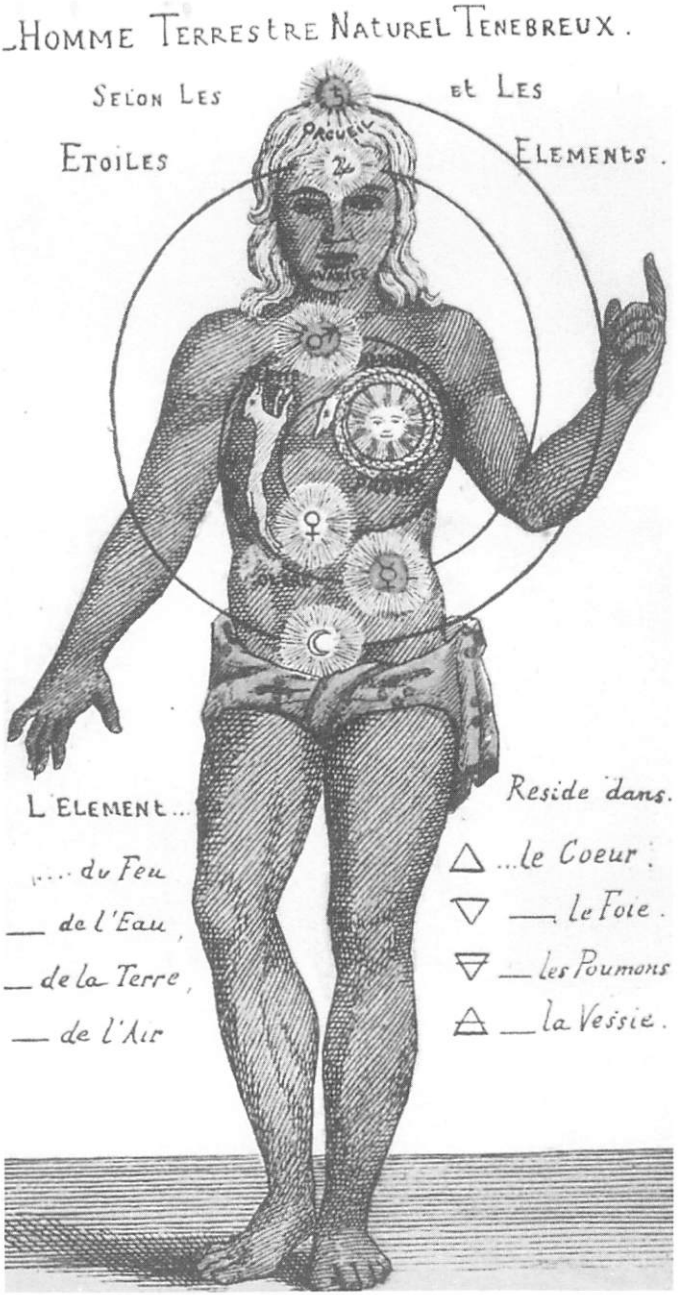
これらは、実は人体に存在する霊的なセンターを表わしたものなのです。

地球上に存在する様々な宗教が、人間の身体にいくつかの霊的なセンターの存在を認めています。そして、これらの人体図に描かれていたものこそ、まさにその「霊的センター」の象徴なのです。

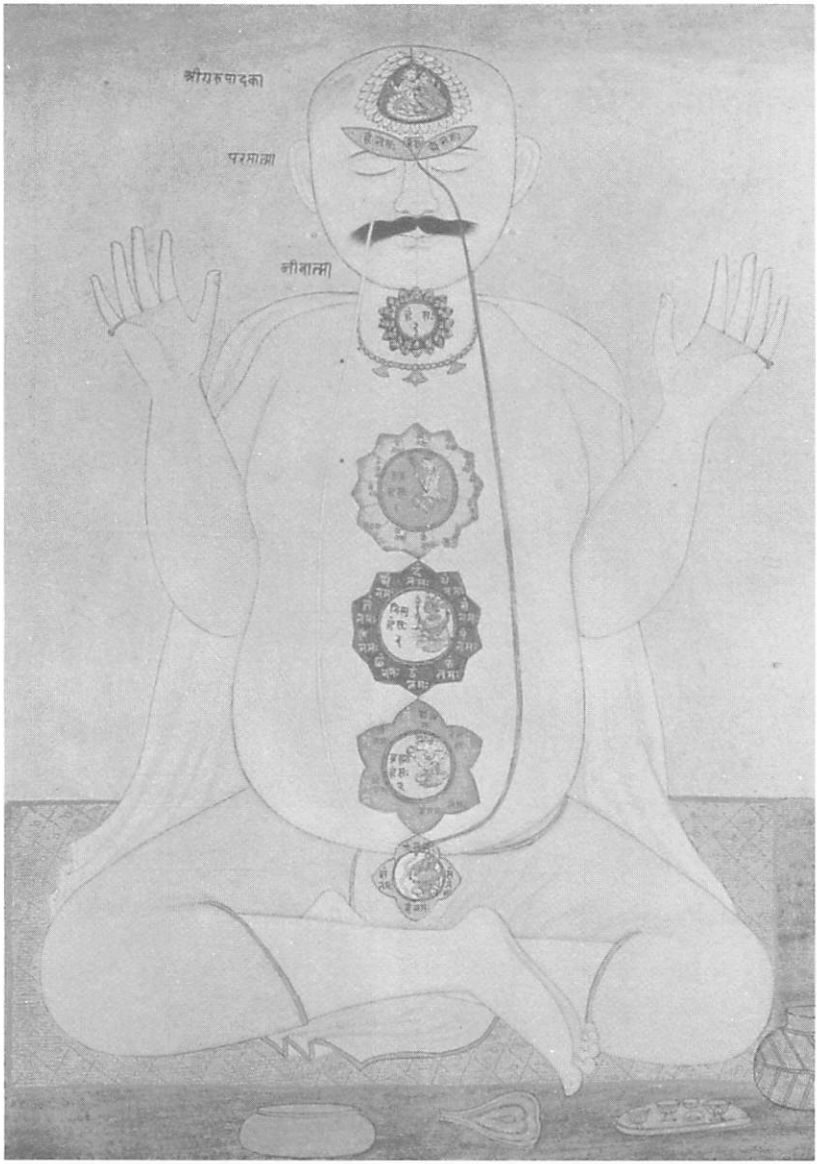
人体に存在するといわれる霊的センター……。果たして、それは本当に存在するのでしょうか。そして、それは何のために存在しているのでしょうか……。



ネパール（17世紀）



フランス（18世紀）：天体がチャクラと関係づけられている。



インド（19世紀）：人体中のチャクラとナーディー。

ネパール（20世紀）：死者を来世に送り出すときに使用されたといわれているもの。

対　談

7種類ある霊的センター

松原　今回は、人体に存在するといわれる霊的センターについてということなんですけれども、この「霊的センター」とは、そもそもいったい何なのでしょうか。

聖者サンジャヤ　はい。一言で説明するのは難しいところがありますが、主なものは7種類あるといわれます。

松原　7種類ですか。

聖者サンジャヤ　はい。尊師も、この霊的なセンターについては、ご説法の中でたびたび触れられています。

松原　そうですか。それではいったい、その霊的センターとはどういう働きがあるのでしょうか。

聖者サンジャヤ　そうですね、それではここで、それについての尊師のご説法を聞いてみることにしましょう。これは、1992年4月に尊師がロシアを訪れた際に、モスクワ国際大学で行なわれた講演の一部です。

尊師説法

（1992年4月 モスクワ国際大学における講演より）

「一般的に、ヨーガ的にはわたしたちの重要なエネルギーのセンターは７つあるといわれています。しかしわたしの経験では、７万２千カ所にエネルギーが存在してるとわたしは実感しています。この７万２千について、一つ一つ説明することは可能ですが、まあ、ここでそれを始めますと膨大な時間がかかりますので、一般的にいわれている７つのセンターについて、まず話をしたいと思います。

まず、わたしたちの尾てい骨に、根底をなすエネルギーのセンターがあります。このセンターが活性されますと、わたしたちの肉体的な疲労、あるいは、外的な原因による病がなくなります。例えば例を挙げるならば、風邪をひいたとしても、それが数十分で消えてしまいます。

第２番目のセンターである、性器に存在するセンターが開発されますと、わたしたちはたいへん情緒的な詩、あるいは作曲といったようなものができるようになります。この段階で、わたしたちの情緒はたいへん発達します。

そして、第３番目のセンターである、おへその太陽神経叢（たいようしんけいそう）のセンターが開発されますと、思索をする力、つまり、考えて、ものを判断する力が増大します。また、このセンターが開発されますと、たいへん食欲がなくなり、１日１回でこの人生を生きることができるようになります。

そして、第４番目のセンターである、この胸の中心にあるセン

ターが開発されますと、わたしたちは、大いなる栄誉を受けることができるようになります。

そして、第5番目である、この喉のセンターが開発されますと、わたしたちはたいへん有名になり、高い地位や権力を受け、宇宙の実相、つまり宇宙の実体について認識を深めることができるようになります。そして、オーソドックスなこの宇宙の法則の原因と結果について理解できるようになります。

そして、6番目のセンターである、この脳下垂体のセンターが開発されますと、わたしたちは、この世の願望をすべてかなえることができるようになります。

まあ、このような6番目の、例えばすべての願望がかなえるということをわたしが話しますと、「それはなぜだろうか、非科学的である」とお考えになるかもしれません。もともと、ヨーガの考え方は、例えばここに存在する脳下垂体の働きをお考えになったらわかるとおり、この脳下垂体の働きは、体全体のコントロールを機能している場所です。そして、自己の肉体に対するコントロールのオーダー、これを他に施すことにより、すべての現象を動かすことができるものであるとわたしは考えています。

そして、7番目の、これはセンターである最後のセンターが開発されますと、わたしたちは、この肉体から出入りができるようになります。これは、仏教もそうですし、ヨーガもそうですし、あるいはタオイズム——中国に伝わる「仙道」と呼ばれるものがあるわけですが、それもそうですが、これはすべて、この7番目のセンターを開発し、そしてこの肉体から完全に離脱することを目的としています。それはなぜでしょうか。

それは、わたしたちが「この肉体はわたしである」と考えてい

る間は、多くの制約をこの肉体によって受けなければなりません。つまり、わたしたちのこの肉体は、わたしたちに多くの喜びを与えます。しかしそれと同時にわたしたちは、多くの苦しみを受けなければならないのです。したがってわたしたちがこの７番目のセンターを開発し、そのセンターを自由に使いこなすことができるようになることによって、わたしたちは、その喜びと苦しみから解放されるのです。

そして、この別の身体は別名「喜びの身体」といわれています。この別の身体は、心の働きと密接に関係のある身体です。つまり、わたしたちが喜びを追求し、喜びを求める限り、別の身体は喜びのみを経験させてくれるのです。

松原　つまりこれは、「わたしたちの体の中には、わたしたちの知らない秘密が隠されている」ということなのでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　そうですね。ところが、現代のわたしたちですら知らないことを、いにしえの聖者たちは、修行によって実際に体得していたのですね。そして、その人間を進化させる教えというのが、仏教であり、ヨーガであるわけです。

松原　そうだったのですか……。

世界各地で共通するファクター

豊田　ところで、番組の冒頭にあった人体図なんですが、あそこにあったものが、「霊的センター」ですね。

聖者サンジャヤ　はい。

豊田　この図を見て感じることは、こういったものは解剖学的には存在しないですよね。

聖者ヴァジラティッサ　そうですね。わたしたちがよく目にする人体解剖図の中には、そういったものは見当たりませんね。

松原　しかし、まったく出典の違うものでありながら、これほどまでの共通性が見られるというのは、何か意味があると思われるのですが。

聖者サンジャヤ　霊的センターの存在は、中国のタオイズムについても認められていますし、またキリスト教においても、ヨハネの黙示録に「7つの燭台」という表現がありますが、これは7種類の霊的センターのことを表わしていると思われます。

松原　ということは、冒頭の人体図に見られるような類似性は、多くの宗教や神秘的な思想に共通に見られる一つのファクター

であるということなのでしょうか。

聖者サンジャヤ　はい。そのとおりだと思います。

エネルギーのセンター——チャクラ

松原　ところで、これらの図の特徴として、体のいくつかのポイントに蓮華の花のようなものがあるのをはじめとして、様々なシンボルがそこに描かれていると思うのですが。

聖者ヴァジラティッサ　ええ。これは、尊師のご説法の中にあった、「エネルギーのセンター」、ヨーガの言葉を使えば、「チャクラ」ということができると思います。

豊田　このチャクラについてもう少し詳しく説明していただけませんか。

聖者サンジャヤ　前にお見せした人体図をよりわかりやすくしたものが図1です。これがチャクラ図です。ここには主な7種類のチャクラが示されています。

チャクラには様々な力、いわば人間の可能性のようなものが眠っています。そして、チャクラは修行によって開発することができ、それによってチャクラに秘められた力を身につけることができるのです。

それでは、一つ一つのチャクラについて説明していきましょう。

一番下の、「尾てい骨に根底をなすエネルギーのセンター」は、ヨーガではムーラダーラ・チャクラと呼ばれ、このチャクラが開発されると、肉体的な疲労、あるいは外的な条件による病がなくなるといわれています。

松原　病が、ですか。では、病で苦しんでいる人が修行によって

チァクラを開発することができれば、この苦しみから解放されるということができるのですか。

聖者ヴァジラティッサ　ええ。オウム真理教には、修行によって難病から解放された人が多数いらっしゃいます。わたしも医師ですが、一般の医学常識から見て、考えられないようなことが頻繁に起こっているんです。例えば、重症筋無力症という難病にかかり、入退院を繰り返していた55歳の女性ですが、彼女は普通に日常生活を送れるようになっています。

聖者サンジャヤ　次は2番目です。これは性器に存在するセンターなのですが、スヴァディスターナ・チァクラと呼ばれ、ここが開発されると、情緒がたいへん発達します。そして、情緒的な詩や曲を作る才能が増大します。

豊田　偉大な詩人になりたい人などは、このチァクラを開発するといいわけですね。

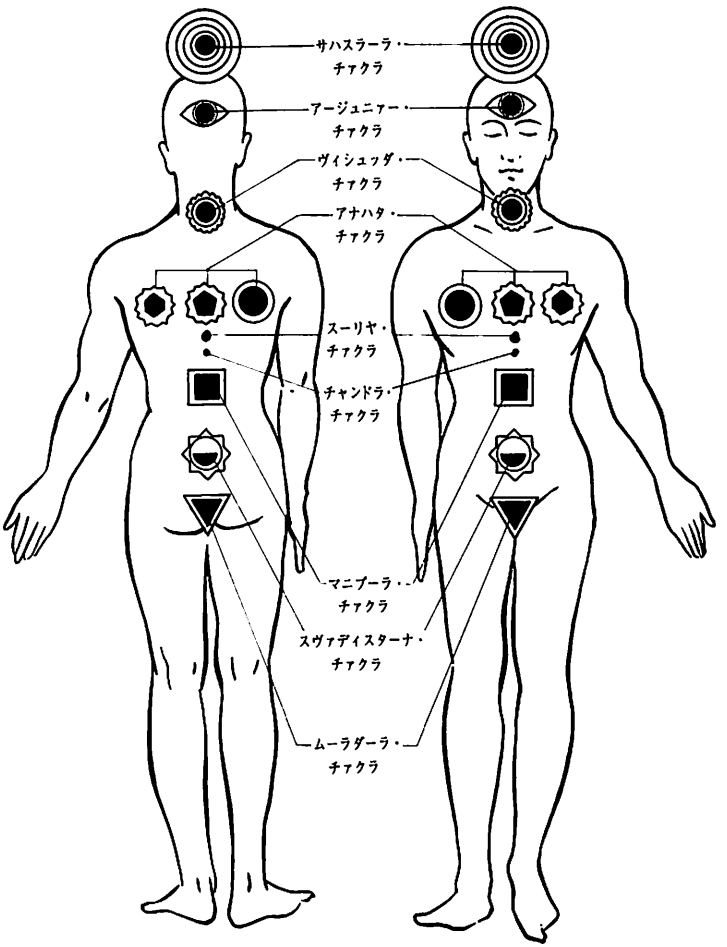
聖者サンジャヤ　そうですね。次は、3番目です。おなかの中央にある太陽神経叢のセンターはマニプーラ・チァクラと呼ばれ、ここが開発されると、思索をする力・ものを判断する力が増します。

松原　このチァクラが開発されれば、つまり天才になれるのでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　そうですね。例えば、平均的な成績しか取れなかった学生が、修行することによってトップに踊り出たという例が多々あります。

聖者サンジャヤ　4番目の霊的センターは胸にあり、アナハタ・チァクラと呼ばれています。アナハタ・チァクラは3つあります。ここが開発されると、大いなる栄誉を受けることができるように

図1 チャクラ図


サハスラーラ・
チャクラ
アージュニャー・
チャクラ
ヴィシュッダ・
チャクラ
アナハタ・
チャクラ
スーリヤ・
チャクラ
チャンドラ・
チャクラ
マニプーラ・
チャクラ
スヴァディスターナ・
チャクラ
ムーラダーラ・
チャクラ

なります。また、他人の心を読む力、空中浮揚といった神秘的な力も身につきます。

豊田　心を読んだり、空中浮揚ができたりするのですか。

聖者サンジャヤ　5番目の霊的センターは、喉にあるわけですが、これはヴィシュッダ・チャクラといわれています。ここが開発されると、地位や権力を得ることができるようになり、また、この宇宙の実相について、知ることができるようになります。

松原　宇宙の実相ですか……。もしそれを知ることができたとするならば、間違った生き方をしないですみますね。

聖者サンジャヤ　ええ。次は6番目のセンターです。このセンターは、脳下垂体にあり、アージュニャー・チャクラと呼ばれています。ここが開発されると、この世の願望をすべてかなえることができるようになります。そのほかに、原子などの微細な物質を見ることができるといわれます。

松原　この世の願望がすべてかなう、というのは夢のようですね。

聖者サンジャヤ　そして、最後がサハスラーラと呼ばれているものですね。このセンターが開発されると、わたしたちは肉体とは違う別の身体を使えるようになり、肉体から離脱することができるようになります。

修行によって得られるチャクラの力

聖者ヴァジラティッサ　これらのことは、ヨーガの古い経典である『シヴァ・サンヒター』などに書かれています。先程の体験談などにもありましたが、実際、オウム真理教の修行者の中には、これらの一見信じられないような力を修行によって身につけた

方々がたくさんいらっしゃいます。

松原　なるほど。このようにいにしえの経典に書かれているだけではなく、それが実際に、オウム真理教の修行によって身につくわけですね。

豊田　たしかに、そういった様々な能力、あるいは神秘的な力が身についたら素晴らしいと思うんですけれども、これはだれにでも身につくものなんでしょうか。それとも、もともと特別な才能・素質を持った人だけに可能なんでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　チャクラはすべての人に存在していますので、それを開発することはだれにでも可能です。

聖者サンジャヤ　ただ一言付け加えますと、霊的な進化を目指す場合、高い霊的ステージに到達している指導者がいるかどうか、効果的な修行法が存在するかということが重要なポイントとなります。

つまり、だれを指導者として仰ぐか、どの修行を行なうかによって、速やかに結果が出たり、逆に無益徒労に終わってしまったりするわけです。

松原　オウム真理教ではどうなんでしょうか。

聖者サンジャヤ　そうですね、オウム真理教には、修行によって神秘的な力を獲得した人がたくさんいます。

松原　そうですか。もし、このような能力や神秘的な力を自在に使うことができるようになったら、素晴らしいでしょうね。

聖者サンジャヤ　はい。しかし、一つ注意しなければならないのは、これらの力は、それ自体が修行の目的なのではなく、解脱・悟り、つまり、絶対的な自由・幸福・歓喜という魂の最高の状態に到達するための、途中のステップにすぎないということです。

麻原彰晃尊師が、最終解脱を果たされた後も、この世界にとどまられ、救済活動をしておられるのは、すべての魂に、この素晴らしい、絶対的な自由・幸福・歓喜の境地を、得ていただくためなのです。

チァクラを検証する!

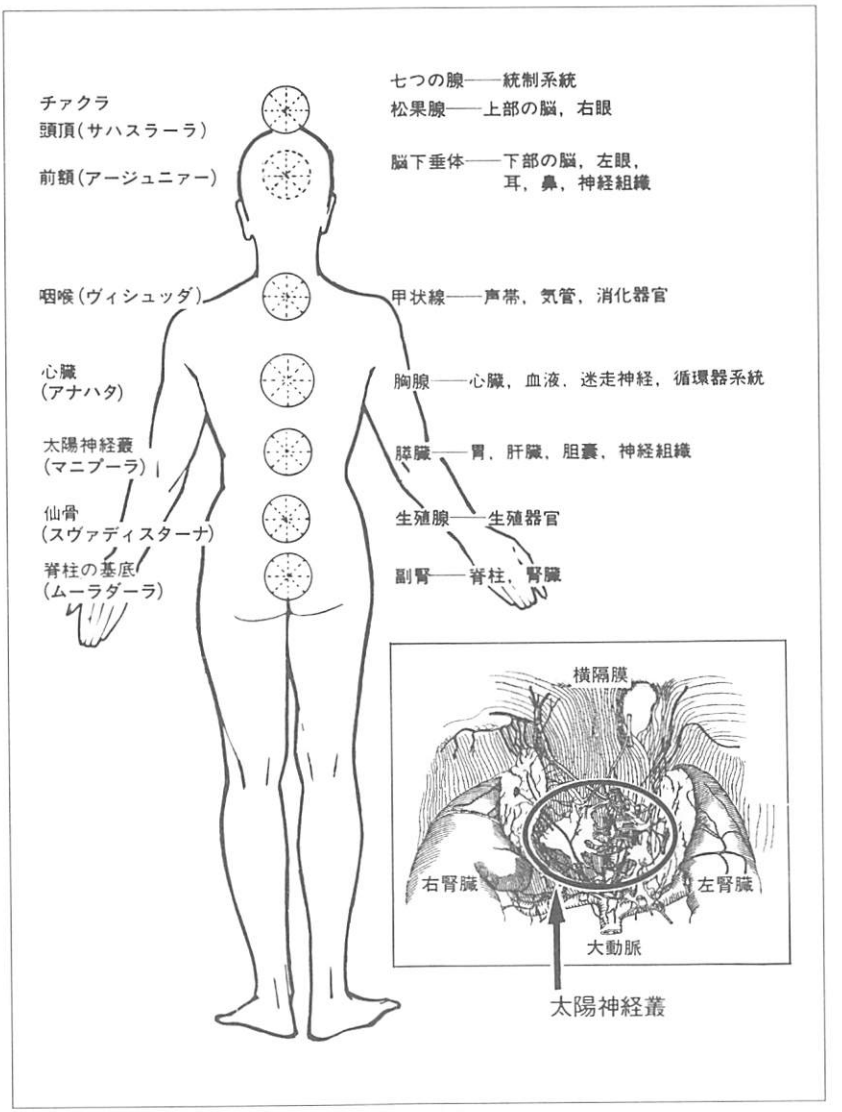
松原　さて、この番組では、修行の効果や、あるいは、いにしえの多くの経典に書かれている内容などについて、科学によって検証していこうとしているのですが、このチァクラの存在についても、科学的な方法を使うことにより、検証することができるのでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　まず、医学的な面から考えられることを補足しましょう。実は、これらのチァクラが存在するといわれている場所には、内分泌腺や神経叢が存在しているんです。例えばおなかのマニプーラ・チァクラの部分には「太陽神経叢」といわれるものがありますし、また、例えば喉のヴィシュッダ・チァクラには「甲状腺」が、性器のスヴァディスターナ・チァクラには男性は「精巣」、女性は「卵巣」があり、ホルモンを分泌しています。「ホルモン」というのは微量でも人体に大きな影響を与えるものなんですが、チァクラの位置にこういったものが存在しているというのは興味深い話ですね。

松原　そうですか。しかし、こういった、目に見えない霊的なセンターというものを科学的に証明していくのは、難しいことかもしれませんね。

聖者サンジャヤ　はい、確かにそのとおりです。しかし、次のよ

図2　7大チャクラ



＊太陽神経叢(たいようしんけいそう):(＝腹腔神経叢)

胃の後ろの腹腔動脈が起こる部分にある大動脈の前の最大の自律神経叢。内臓と迷走神経、腹腔と上腸間膜神経節からの線維からなる。他の腹部神経叢と結合して全腹部内臓に枝を送る。放射状の神経叢のため、この名がある。

うなことはいえると思います。いにしえの経典には、「チャクラが開発されると、このような状態になる」という記述があります。そして、このような体験をしている人としていない人を集め、それぞれの人の「チャクラ」の部分を何らかの方法で測定します。そして、この2つのグループの測定結果の間に著しい違いがあるとすれば、それはチャクラの存在の一つの裏づけとなるのではないでしょうか。

松原　それによって、チャクラの存在を証明していこうというわけですね。

聖者サンジャヤ　ええ、そのとおりです。

松原　「チャクラが開発される」という内的な体験を物理的な方法によって検証することができる、というわけですか。

聖者サンジャヤ　そうです。

チャクラは霊的エネルギーのセンターですが、修行がある程度進んでいる人は精神集中をすることにより、このエネルギーを自由に動かすことができます。そこで、チャクラが開発されている場合には、チャクラに精神集中することにより、その霊的エネルギーをチャクラに集中させることによって、何らかの変化が見られると思われるわけです。

松原　なるほど。では、次回はその実験についてお伺いすることにしましょう。

『シヴァ・サンヒター』について

ヨーガの経典である『シヴァ・サンヒター』は、16～17世紀ごろ成立した、シヴァ派の聖典です。この経典には、呼吸をいかに

制するかによって、次の4段階が生じるとされています。その4段階とは、アーランバ段階、ガタ段階、パリチャヤ段階、ニシュパティ段階の4つです。そして、この順序に従って、ステージが高くなっていくのです。

もちろん、それぞれの段階によって、得られる神秘的な力も異なります。それでは、ここにそれを挙げてみましょう。

《アーランバ段階》

空中浮揚
予言能力
遠隔透視能力
遠隔透耳能力
微視能力
人の体に入って動かすことができる
大小便で磨いて劣等な金属を黄金に変えることができる
物にかすみをかけて見えなくすることができる
三界[*1]を自由に出入りできる
自分の思いどおりに生きられる
相手を意のままに動かせる

幽体離脱[*2]ができる
万物を意のままに作り出せる
体を重くしたり軽くしたりできる
体を拡大させたり縮小させたりできる

《ガタ段階》

輪廻[*3]の輪の中で成就し得ないことは一つもない

すべての感覚にとらわれなくなる

親指で全身を支えることができる

《パリチャヤ段階》

カルマ[*4]を消滅し、来世に再生する必要がなくなる

地・水・火・風・空の危険を除く

巨大な時間を経ても死は来ない

《ニシュパティ段階》

生きてる間に解脱できる

不死[*5]の甘露を飲むことができる

もはやヨーガ修行の必要はなくなる

疲労、熱病、老衰、病気はなくなる

必ず死を征服する

再生することなく、神々と共に楽しむことができる

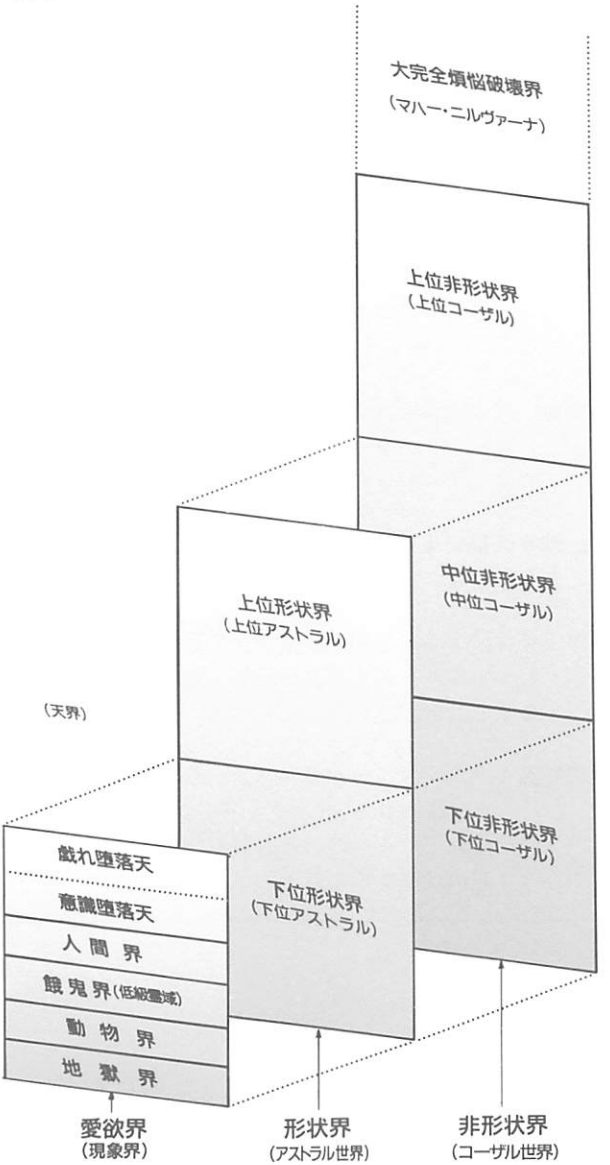
あらゆる障害から離れて完全な独立者となる

これが、『シヴァ・サンヒター』の4段階です。

ところで、ヨーガにおいては、神秘的な力はどのようにとらえられているのでしょうか。

ヨーガでは神秘的な力は「シッディ」と呼ばれ、「修行の成就」という意味で用いられています。ここでも、修行をしていくにあたって、必ず身につくものというとらえ方がなされているのです。

三界の図


大完全煩悩破壊界
(マハー・ニルヴァーナ)
上位非形状界
(上位コーザル)
中位非形状界
(中位コーザル)
下位非形状界
(下位コーザル)
上位形状界
(上位アストラル)
下位形状界
(下位アストラル)
(天界)
戯れ堕落天
意識堕落天
人 間 界
餓 鬼 界(低級霊域)
動 物 界
地 獄 界
愛欲界
(現象界)
形状界
(アストラル世界)
非形状界
(コーザル世界)

＊1三界：仏教でいう、欲六界・色界・無色界のこと。現在オウム真理教では、愛欲界・形状界・非形状界という訳語を当てている。ヨーガでは、現象界・アストラル世界・コーザル世界という。『マハーヤーナ・スートラ』（オウム出版）参照。

＊2幽体離脱：魂が肉体を抜け出し、アストラル世界へ入ること。スヴァディスターナ・チャクラの幽体を使う。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

＊3輪廻：魂が煩悩によって幻影から脱却できずに、生死を繰り返すこと。

＊4カルマ：条件によって原因が生じて、原因によって結果が生じること。つまり、過去の良い行為・悪い行為が後に自分に返ってくること。

＊5不死の甘露：クンダリニーがサハスラーラ・チャクラに到達することで得られる、「ネクター」とも「ビンドゥ」とも呼ばれているもの。その甘露によって、わたしたちは不死の状態を得られる。

第1章　チャクラの科学的検証 Part2

前回の「真理探究」では、人体に眠る霊的センター＝チャクラについて解説してきました。このチャクラは、普通の人間の場合は眠った状態で働いていません。しかし、修行によって開発することができ、肉体的に非常に健康になったり、様々な能力を覚醒させたり、さらには、常識では考えられないような神秘的な力を身につけることができるのです。

尊師説法「光のスポーク――チャクラ」

こんばんは。麻原彰晃です。

わたしたちは、通常、「わたし」と呼ばれる表層意識と、そして、本当はわたしたちを動かしている潜在意識の２つの要素によって、この人間の世界で活動を行なっています。

例えば、わたしたちが友人と会い、そして語り、楽しむ。この意識は、「表層意識」と呼ばれるもので、わたしたちが「自分自身」と問いかけられたとき、「これがまさにわたしである」という意識のことを指します。しかし例えば、数多くの知人の中から、特にこの人が好きであるとか、あるいは特にこの人が嫌いであるというような考え方は、その表面的な意識ではなく、より深い意識に根差されているのです。

では、この潜在意識を形成しているもの、これはいったい何でしょうか。これはわたしたちの過去、あるいは過去世というものを土台として、経験が決定した際に、わたしたちが経験する心の働き、これこそが潜在意識を形成しているのです。

例えば、例を挙げるならば、髪の毛の長い女性に絶えず優しくしてもらっていると、髪の毛の長い女性イコール優しい女性であるというような考え方が固定化し、そしてそれは潜在意識へと移行します。この潜在意識へ移行した意識は、わたしたちの行動パターンを、髪の毛の短い人より髪の毛の長い人の方向へと好意的な感情を形成するというかたちを取ります。したがって、もし、この感情の形成が正しければ、わたしたちは幸福になることがで

きますし、逆に、もしそれが過ちであれば、不幸へといざなわれるのです。

ところで、この潜在意識に大きな影響を与えているもの、これがチァクラであるということができます。もともと「チァクラ」とは「スポーク」という意味です。これは、中心のエネルギー・センターから、外側に向かっている光の筋の様子を、いにしえからの偉大な聖者たちが透視し、そしてそれによって「チァクラ」という名前を名付けました。

もちろん、その霊眼の段階によって、そのチァクラの見え方はかなり違ってきます。それはちょうどわたしたちが対象に対して認識する場合、その人のもともと持っている能力のポテンシャルによって、対象を認識することと一致しています。

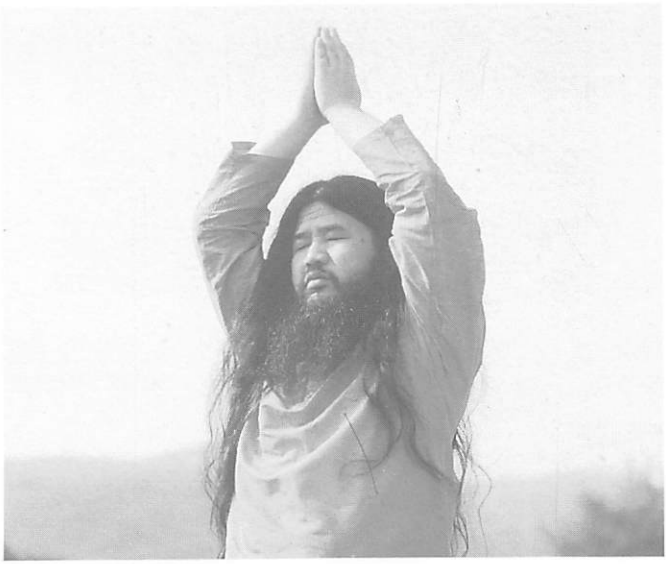
例えば機械の専門家で、そして車の各部品についてよく熟知している人が車を見た場合、その車の外枠だけではなく、内側のエンジンの状態や、あるいはギアの状態等々、その車の性質についてよく理解することができるでしょうし、逆に、もし車に対して、あるいは機械に対してまったくの素人、しかも知識を持っていない状態であるとするならば、車は単なる外側の形状や、あるいは目に見える部分だけの仕様、つまり乗る側の立場に立った見解しか身につけることはできないはずです。

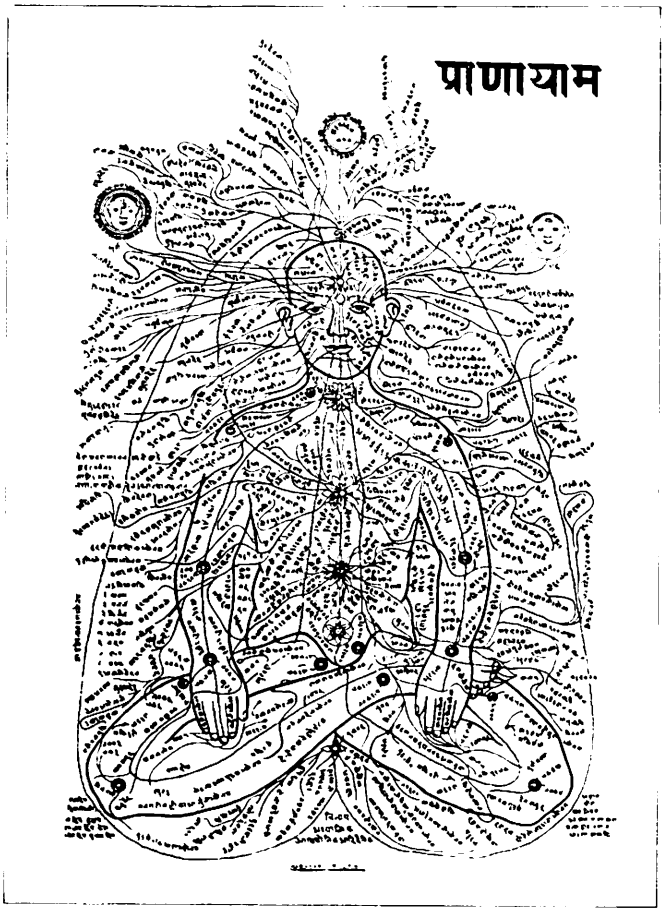
そして、聖者にも多くの段階のステージが存在します。その最終段階、コーザルへ到達し、そしてコーザルから最終的なニルヴァーナへと到達した魂は、自分自身の身体を別の目、つまり第3の目で観察した場合、ムーラダーラ・チァクラ、スヴァディスターナ・チァクラ、マニプーラ・チァクラ、アナハタ・チァクラ、ヴィシュッダ・チァクラ、アージュニァー・チァクラ、そしてサハスラーラ・

チャクラから光のスポークが出ていることを知るのです。これが、チャクラのゆえんです。

もちろん、「光」イコール、例えば、現代の最先端である光科学を見てもわかるとおり、「情報」であるということができます。そしてこれらの情報は、外的世界へのパイプ役を果たし、あるいは外的世界からの情報のパイプ役を果たすわけです。したがって皆さんがこのチャクラについて精通し、そのチャクラのメリットと、そしてディフェクトについて徹底的に理解するならば、皆さんはこの現実の生活における行動に対してのメリットやディフェクトだけではなく、より深い意味での真実を理解し、そして有益な方向へと自分自身をいざなうことができるでしょう。それらの真実を知る道、それこそが真理なのです。

さあ皆さんも、しっかりと真理の実践を行ない、そして、自分自身をより幸福へと導いてください。





「チャクラとナーディー」 中国 チベット自治区　時代不明

対　談

各チャクラの特徴

聖者サンジャヤ　「チャクラ」というのは、わたしたちの身体に存在しているといわれる霊的なセンターです。主なものは7種類あります。普通の人の場合、眠った状態で働いていません。しかし、修行によってこのチャクラが開発されると、様々な能力や神秘的な力が身につくといわれています。

松原　具体的には、どのような力が身につくのでしょうか

尊師　まず、ムーラダーラ・チャクラが開発されると、非常に健康になります。で、ここでいう健康とは、機能的な状態を回復させる働きが増大するということがいえます。でまあ、この科学的な意味合いとしては、温度上昇、つまり体温の上昇によって、肉体内における抗原抗体反応を促進することが一つと、それから第2番目には、それより以上の体温上昇によって、例えばガンだとか、いろいろなウイルス性疾患におけるウイルス等を、生存させなくする働きがあるということができるでしょう。

2番目のスヴァディスターナ・チャクラは、これは一般的にいわれると、性的なチャクラであるということがいえます。この性的なチャクラはとうぜん対象となる異性に対する優しい言葉遣いでもわかるとおり、非常に詩的な、つまり情緒的な部分を活性化し、それによって非常に異性にもてるようになると。で、それだけではなくて、例えばまあ男性ホルモン、あるいは女性ホルモ

ンの働きを見られてもわかるとおり、例えばテストステロンはわたしたちを男性的にしますし、そして筋力を非常に増大すると。これからもわかるとおり、わたしたちが非常に男性的あるいは女性的になると。それだけではなくて、このチャクラが開発されますと、禁欲つまり性的な捨断が非常にやりやすくなるといえます。

3番目のマニプーラ・チャクラが開発されますと、わたしたちの俗にいうところの記憶力、あるいは推理力といった、学問に関する部分が非常に活性化されます。これは要するに太陽神経叢の働きが活発化することによって、食べた食物等の消化および吸収が促進し、それによって肉体全体の栄養状態が改善され、そして大脳の働きが良くなると考えたら最もわかりやすいと思います。

そして第4番目のチャクラである、アナハタ・チャクラが開発されますと、非常に誉れ・名誉といったものが、手に入るようになるということができます。これは多くの人たちの心を動かすことのできるチャクラでもあります。まあこの働きについては、一般的に胸線の働きであるといわれていますが、わたしの私的見解から言うならば、そうではなくて、心臓に蔵している真我の働きが、より強く周りに対して影響を与えることができる結果として生じるものだろうと考えています。

次にヴィシュッダ・チャクラが開発されますと、まず天の声を聞くことができると。これは神々と実際に会話し、未来のこと、あるいは過去のことについて真実をいろいろと理解ができると。そしてそれだけではなくて、宇宙の法則というものを理解できると。まあこれはヨーガの経典では、「3つのヴェーダについて完全に精通できる」と説かれています。そしてそのほかに、このチャクラが開発されますと、アストラル世界の音楽を聞くことができ

各チャクラの形状と色

チャクラ	位置	形状	色
ムーラダーラ・チャクラ	尾てい骨	逆三角形	暗い赤色
スヴァディスターナ・チャクラ	性器	8枚の花弁を持ち、花弁の中心は半月形が見える	オレンジ色
マニプーラ・チャクラ	へそ	四角形	輝くような藍色
アナハタ・チャクラ	左乳頭	12枚花弁を持った六角形	黄金色
	右乳頭	花弁を持たない円	深紅
	左右の両乳頭を結ぶ線と正中線が交わる点	10枚花弁を持った五角形	スカイ・ブルー
ヴィシュッダ・チャクラ	喉	16枚の花弁を持った円形	灰色
アージュニャー・チャクラ	脳下垂体	花弁は大きく分けて2枚。それぞれが48枚に細分化されている。長円	白銀
サハスラーラ・チャクラ	頭頂	球状	薄いブルーの入った白銀

麻原彰晃尊師著『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』〈オウム出版〉より

るようになり、名作曲家への道が約束されるということができるでしょう。

そして6番目のチャクラである、アージュニャー・チャクラが開発されますと、「第3の目」を有することができるようになります。この「第3の目」とは、対象を透視する力が身につきます。これは段階的な神通という点から考えると、最後から2番目に属するわけですから、もうすでにこのチャクラが開発されると、神々の要素が強くなった人間であるということができるでしょう。

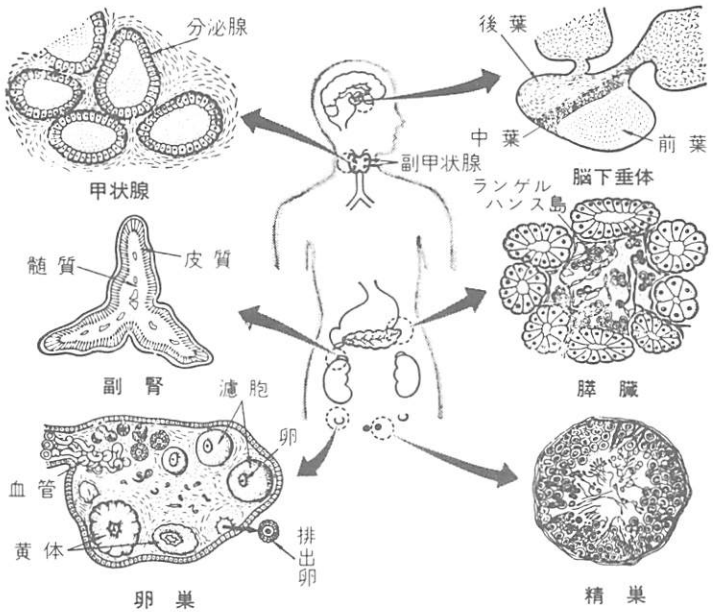
ここで一つ気をつけておかなければならないことは、ここで開発される天眼（てんげん）、つまり「第3の目」というものは、その人の心のステージによって段階があるんだということを身につける必要があります。まず粗雑な意識のある人は、粗雑なものを透視するようになると。そして微細な意識の人は、微細なもの、例えばその人の心の働き等を目で見ることができるようになるだろう。そしてより微細な意識の人は、その対象となっている人の本質、つまり、まあ輪廻転生等も含めてそうですが、それを視覚的にとらえることができるようになります。

そして最後は、これは一般的にチャクラとは呼ばれませんが、「サハスラーラ」と呼ばれる7つめのチャクラがあります。この7つめのチャクラは、わたしたちをこの肉体から解放するためのセンターであると理解していただいたらよろしいでしょう。

チャクラとその医学的位置

聖者ヴァジラティッサ　先程、「チャクラは目に見えない」という話がありましたが、それについて一言付け加えさせていただき

ヒトの主な内分泌腺の位置と構造



内分泌腺		ホルモン名
副腎	髄質	アドレナリン
		ノルアドレナリン
	皮質	糖質コルチコイド
		鉱質コルチコイド
精巣		テストステロン
卵巣	濾胞	エストロゲン
		エストラジオール
	黄体	プロゲストロン
胎盤		胎盤ホルモン
胃粘膜		ガストリン
十二指腸粘膜		エンテロガストロン
		セクレチン

内分泌腺		ホルモン名
脳下垂体	前葉	成長ホルモン
		甲状腺刺激ホルモン
		副腎皮質刺激ホルモン
		生殖腺刺激ホルモン
		乳腺刺激ホルモン
	中葉	メラニン細胞刺激ホルモン
	後葉	オキシトシン
		バソプレシン
甲状腺		チロキシン
副甲状腺		パラトルモン
膵臓（ランゲルハンス島）		グリカゴン
		インシュリン

ます。

確かに、肉体を解剖してもチャクラを確認することはできません。しかし、チャクラが存在するといわれている場所には、神経叢や、微量でも人体に大きな影響のある「ホルモン」を分泌する内分泌腺が存在しています。

例えば、おなかのマニプーラ・チャクラの部分には太陽神経叢が存在しています。また、喉のヴィシュッダ・チャクラには甲状腺ホルモンを分泌する甲状腺が存在しています。性器のスヴァディスターナ・チャクラには男性の場合には精巣、女性には卵巣が存在していて、性ホルモンを分泌しています。このように神経叢やホルモンを分泌する内分泌腺の位置がチャクラと一致しているというのは非常に興味深いことだと思います。(P29の「7大チャクラ」の図も参照のこと)

尊師　先程も述べたとおり、特にこの神経叢の働き、あるいはまあホルモンの働きというものは非常に重要であると。で、例えば現代科学が進んで何を行なったかというと、このいかに神経叢を活発に働かせるか、あるいはホルモンの分泌を促進させるか、あるいはその分泌されているホルモンを飲むことによって体を変えるかということがポイントとなっているよね。

例えばまあ例を挙げるならば、100メートル走において、もしこのテストステロン、つまり男性ホルモンや、あるいは成長ホルモン等を注射したりあるいは飲むことによって、その筋肉は増大し、スピードを縮められる。で、これからもわかるとおり「ホルモン」というものはたいへんわたしたちにとって、わたしたちを人間から人間以上のものへと変えてくれる働きがあることは間違いない。そしてそれを内的瞑想によって活性化すること、これ

が、クンダリニー・ヨーガの瞑想であるということはいえると思います。

松原　ありがとうございました。

温度変化からチャクラを解明する！

松原　それではそろそろ、チャクラの実験について説明をお願いします。

豊田　はい。今回は、チャクラの存在を温度変化によってとらえようと試みました。

松原　温度ですか？

豊田　はい。「白金測温抵抗体」を、眉間、そして眉間の中央から3cm離した部分に張ります。この眉間というのは、アージュニャー・チャクラが存在するといわれているのです。そして、通常の状態と、この部分に精神を集中した状態、この2つの状態の温度変化を測定しました。

聖者サンジャヤ　ちょっと一言付け加えさせてください。修行がある程度進んでいる者は、精神集中によって霊的エネルギーを動かすことができます。チャクラは霊的エネルギーの中心ですから、精神を集中し、エネルギーを集中することによって、何らかの変化が見られると思われるわけです。もちろんこれは、チャクラが開発されている場合です。そして、今回はこれを、温度変化というかたちでとらえようと試みました。

松原　今回の実験で、眉間のアージュニャー・チャクラを使ったのには、特別に何か意味があるのでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　つまり、眉間の部分には筋肉が少ないの

で、そのため、測定の際、筋肉の発熱の影響を少なくすることができるということがあるわけです。そのため今回は眉間のアージュニァー・チァクラを使いました。

尊師　つまり今のヴァジラティッサ到達光師の見解は、要するに筋肉による発熱が生じる可能性があることを防ぐために、アージュニァー・チァクラを実験として使ったということだね。

聖者ヴァジラティッサ　はい、そうです。

豊田　ちょっといいですか。

実験装置について付け加えますと、まず温度計は0.1度の精度を持っています。そして、被験者には、温度計が安定してから精神集中をしてもらいました。

松原　それは、実験を正確にするためにですね。

豊田　そうです。

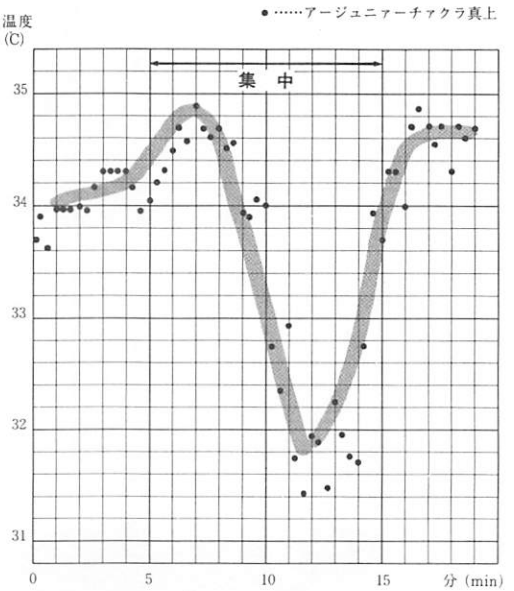
チァクラの部位で温度低下

松原　それでは、実験結果をよろしくお願いします。

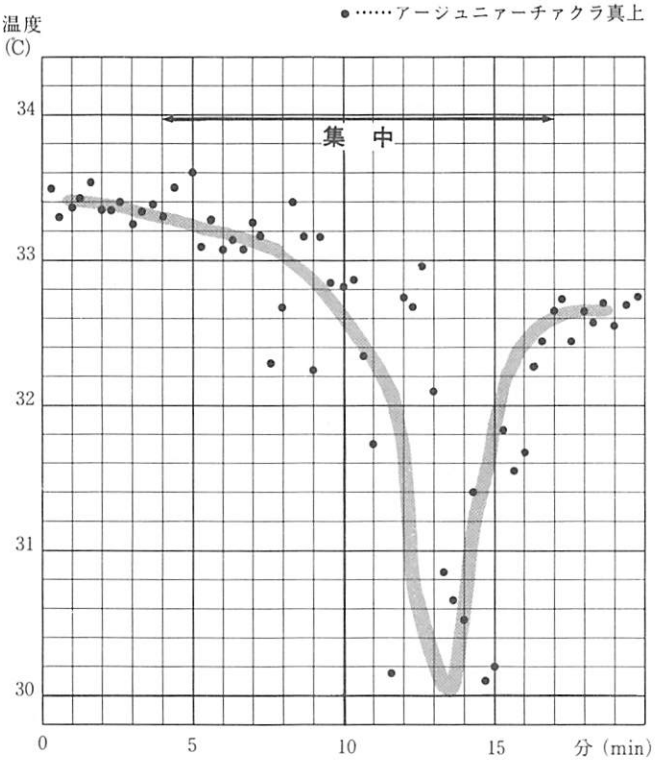
聖者サンジャヤ　まず、クンダリニー・ヨーガの成就者から見ていきましょう。

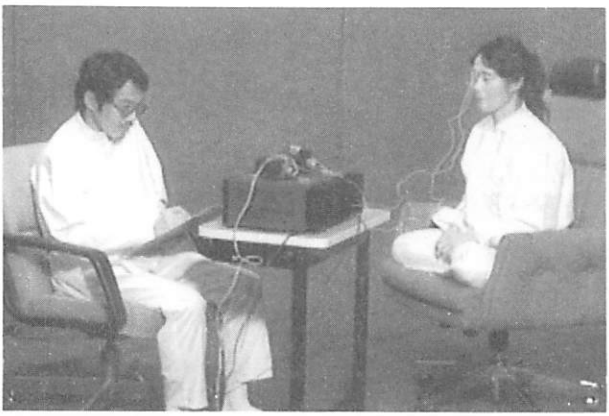
聖者サンジャヤ　これは聖者キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師の温度変化のグラフです。まず、最初の５分間は特に集中はしていません。そして次の10分間は眉間のアージュニァー・チャクラに精神集中しています。そして、最後の５分間は、再び集中しないという条件で、チャクラの温度を測定しました。

精神の集中によって、アージュニァー・チャクラの部位に顕著な温度の低下が見られます。

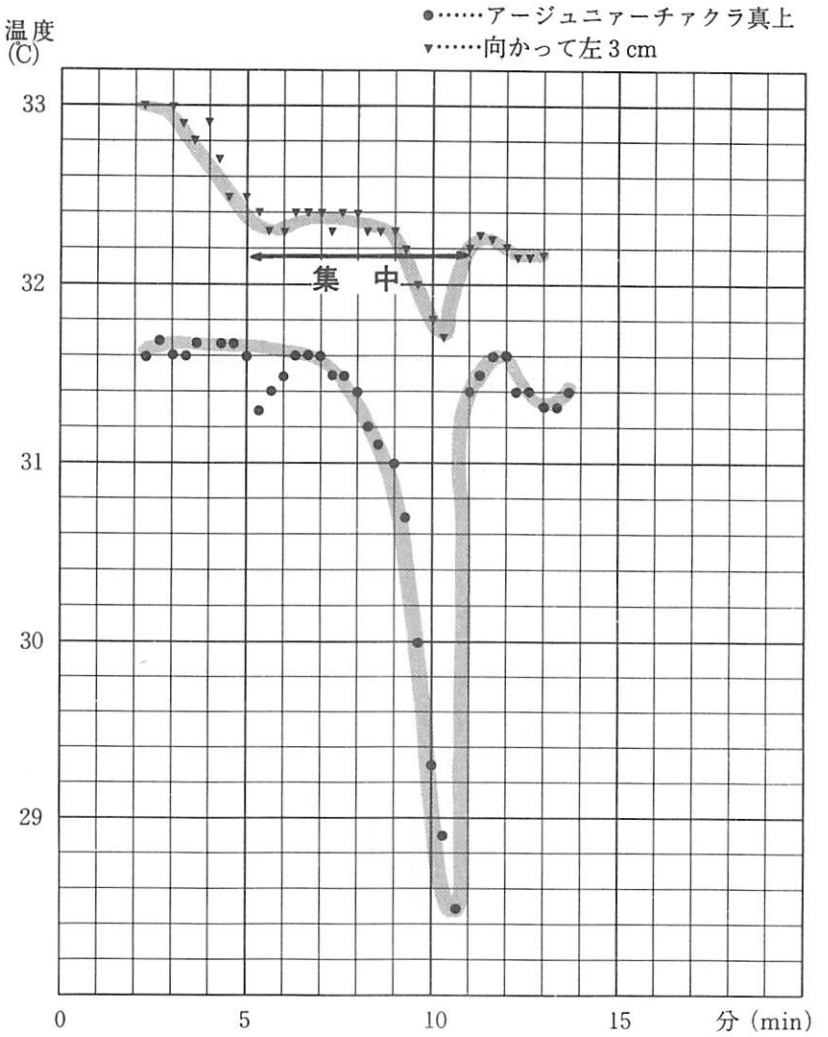


聖者サンジャヤ　同じくクンダリニー・ヨーガの成就者である聖者イシダーシー到達光師の場合です。集中により3度低下しました。

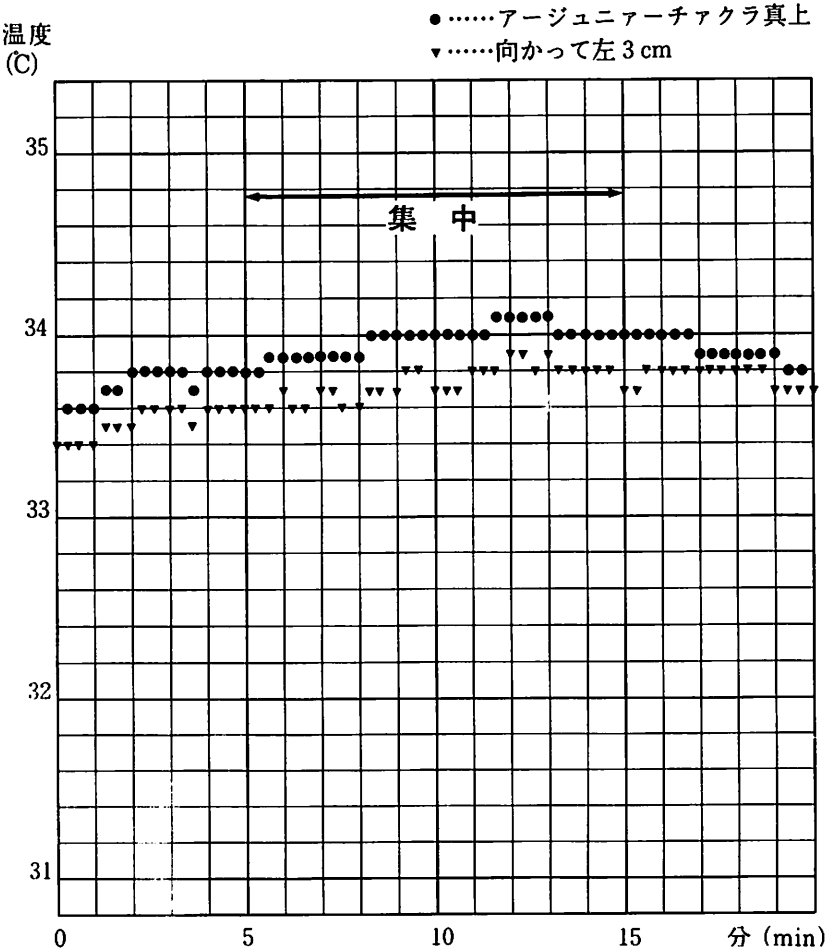




聖者サンジャヤ　次にラージャ・ヨーガの成就者であるスワミ・タントラアバヤーさんの場合です。グラフをご覧ください。精神の集中によって眉間の真上と特に左3cmの部分に顕著な温度変化の差が見られます。



聖者サンジャヤ　次に非成就者の場合です。グラフをご覧ください。若干眉間のほうが温度が高いですが、温度の変化に著しい差は見られません。



聖者サンジャヤ　以上が典型的な４つのサンプルです。

最後に、被験者の内訳を申し上げますと、

クンダリニー・ヨーガの成就者10名、

ラージャ・ヨーガの成就者７名、

非成就者６名、でした。

全体的な結論を申し上げますと、クンダリニー・ヨーガの成就者の場合、聖者キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師の場合に見られるように、温度の変化が見られました。そして一部の者を除くと、ステージの高い者ほど眉間に集中した場合、温度変化が見られました。

松原　この結論については、どのように考えたらよろしいでしょうか、尊師。

精神集中時の温度変化の意味

尊師　真理の実践にはいくつかの方法があるわけだが、まあ聖者キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師の例にあるようなパターンは、もともとテーラヴァーダの実践、つまり上座部的な修行を行なっている場合に起きる典型的な例だと思います。これはあの、もともと煩悩を滅尽することに主眼を置いた修行を行なっているわけですから、とうぜん精神集中そのものがその部分の温度低下をなすと。温度低下をなすことによって煩悩を弱めるという、あるいは煩悩を止めてしまうというような働きがこのデータとしてうかがわれるとみていいでしょう。

しかし、逆にタントラヤーナ、あるいはヴァジラヤーナの瞑想

を行なう場合、この肉体そのものを徐々に地元素から水元素、水元素から火元素というかたちの、要するに分解、肉体を完全に分解するプロセスの瞑想をとります。まあ、これは中国のタオイズムなんかもそのパターンに属すると。この場合にはどんどんどんどん温度を上昇させていって肉体を完全に分解することに主眼が置かれますから、この場合は精神集中した場合、眉間に逆に熱が発生するとみていいと思います。

だから例えば、煩悩を受けてその煩悩に対してまったく影響を受けない心の状態の修行を行なっている成就者は温度が低下し、逆に受けた煩悩を焼き尽くす修行を行なう場合には温度が上昇するとみていいでしょう。

第1章　チャクラの科学的検証 Part3

尊師説法「意識の上昇と六神通」

皆さん、こんばんは。麻原彰晃です。

わたしたちが人間を超え、神に至ろうとするとき、とうぜん、特別な訓練を必要とします。そして、その特別な訓練を「修行」と呼んでいます。この修行において肉体的にどのような変化が生じるかというと、まず体内に熱が発生します。

もちろんわたしたちは、日々の生活を行なっているとき、平均体温、だいたい36度から37度ぐらいの熱を絶えず発生し続けているわけですが、この、神々に至るための特別な修行に入ると、その熱がよりいっそう上昇し、そして場合によっては43度、45度といった、考えられないような高熱を発するようになるわけです。

この熱の発生は何を意味しているかというと、わたしたちのナーディー、つまり、わたしたちの意識が行き来する道筋をこの熱のエネルギーによって浄化するわけです。そして、その熱のエネルギーの上昇は、次に意識を上方へと至らせます。

通常わたしたちの意識は、ムーラダーラ・チャクラに存在するといわれています。このムーラダーラ・チャクラの特徴というものは、邪悪な心、つまり他の生命体に対して害を与えるという心の働きの本質のチャクラであるところの、このムーラダーラ・チャクラにわたしたちの意識は存在しているわけですが、この熱の上昇とともに、その意識は徐々に上方へと向かいます。そしてこの上方へと向かう意識のフロア、つまり各階のストップ役を果たすもの、それがチャクラなのです。

各階のストップ役とはどういうことかというと、例えばこの意識がちょうどエレベーターのように上昇するわけですが、どこにでも自由に停止することができるというわけではないのです。つまり、必ずフロアが存在し、そしてそのフロアに意識は一時的に固定されます。もちろん、修行を途中で放棄した場合、その一時的なはずのフロアが、その意識の固定先であるところのフロアの状態に一生身を置くことになることもあり得るのです。

ところが、わたしたちがその意識の引っかかり、つまりフロアに対して頓着せず、修行をどんどん続けていくと、最終的にはサハスラーラと呼ばれる、この頭頂にあるエネルギーの門からエネルギーが撤退します。それと同時に、わたしたちの意識も撤退します。そして、それによって、わたしたちは人間以上の存在へと至ることができるのです。

したがって、一般的にチャクラ・ヨーガの学派の人たちはチャクラを開発することイコール素晴らしいことだと言いますが、それはあくまでも途中の段階であり、最終的な段階ではないのだということを認識すべきです。

では、このチャクラの機能というものはいったいどのようなものでしょうか。それはちょうどわたしたちが目で見、耳で聞き、鼻で嗅ぐといったような五感を使うのと同じような、ごく当たり前の能力としてこのチャクラが開発されると、いろいろな神秘的な力を得ることができるようになるのです。

その代表的なものは、「六つの神通力」と呼ばれるものがあります。これは、神々の声を聴く力、他人の心を視覚的に見、あるいは感じ取る力、自分の前生だけではなく、他人の前生をも知る力。

ここで一つお断りしておかなければならないことは、前生をまったく信じない人にとっては、この宿命通というものはまったく無価値なものに思われるかもしれません。しかし、わたしたちを構成しているすべての要素は、わたしたちがコツコツコツコツと積み上げてきた言葉、心の働き、そして行動の3つの要素の集積にすぎないのだということを理解するならば、とうぜん過去世の存在というものは、あって当たり前であると考えるようになるはずです。そしてそれと同時に、この理由ゆえに個体差があっても当然であると考えるようになるはずです。

そして次にわたしたちは、今積んでいる身の行ない・心の働き・言葉の働きによって来世どのような世界へ至るのかという神通力を身につけるようになります。そして、すべての原因とすべての結果を知る力を得ます。そして最後に、ディーピングと呼ばれる、この肉体を軽くしたり、重たくしたりする力を得るようになるのです。そしてこれらの力はすべて、チャクラにその秘密が隠されていると考えてよろしいでしょう。

さあ皆さんは、この今日のわたしの話を信じて、人間からもう一歩脱皮し、そして神々に近づく道を歩きますか？ それとも、「わたしは人間のままでいいのだ」と言って、普通の生活を行ない、死というものを境にまったく闇の世界へと落ちますか？ それは、皆さんが叡智を持って現象を見るかどうかによって決まりますね。

6つの神通力

神足通	空中浮揚やテレポテーションを行なったり、高い世界へ飛んだりすることのできる能力
天耳通	神々の声を聞いたり、遠くの音を聞いたりする能力
他心通	他人の心を知る能力
宿命通	自分と他人の前生を知る能力
天眼通	一般に遠透視能力といわれているが、これは北伝仏教の間違いであって、実際には南伝仏教のいう死生智のこと。死生智とは、転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる能力
漏尽通	完全なる絶対なる神の叡智

対　談

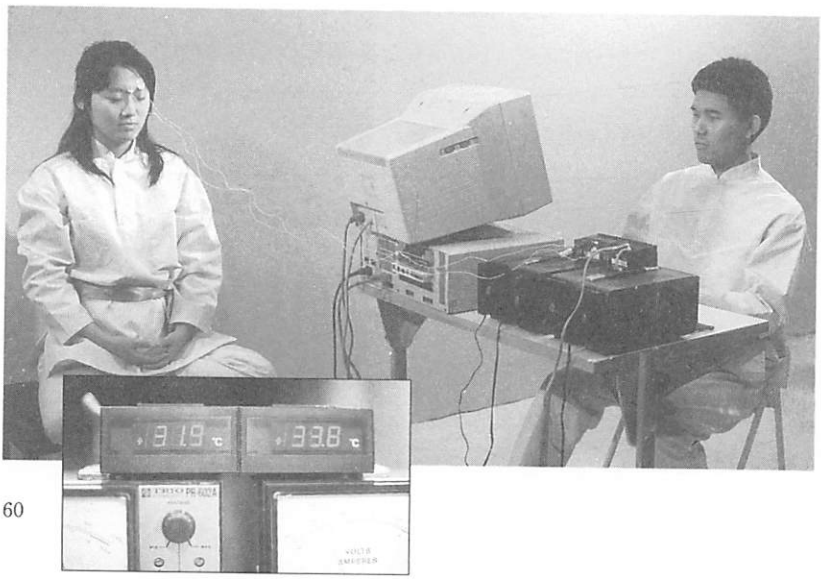
温度変化による実験結果

松原　まず、前回の実験のまとめから入りたいと思います。

豊田　温度の変化によってチャクラの存在を検証しようとしました。

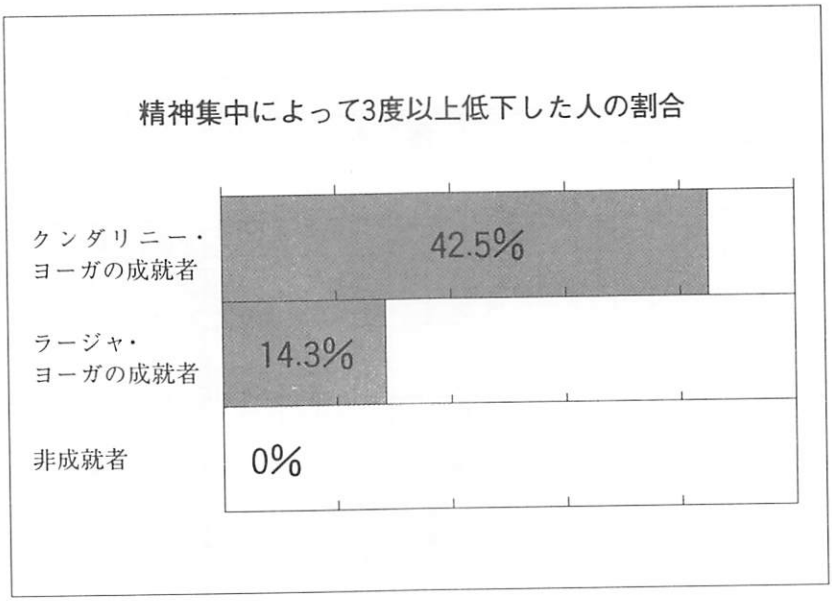
白金測温抵抗体と呼ばれるセンサーを被験者の眉間の中央、そして中央から3cm離した部分に張り付けました。眉間というのは、アージュニァー・チャクラが存在しているといわれている部分です。そして被験者に、通常の状態と、この部分に精神集中してもらった状態、以上2つの状態について温度の測定を行ないました。

具体的には、まず①、最初の5分間は集中しない、②、次の10分間は眉間に精神を集中する。そして、③、最後の5分間は、集



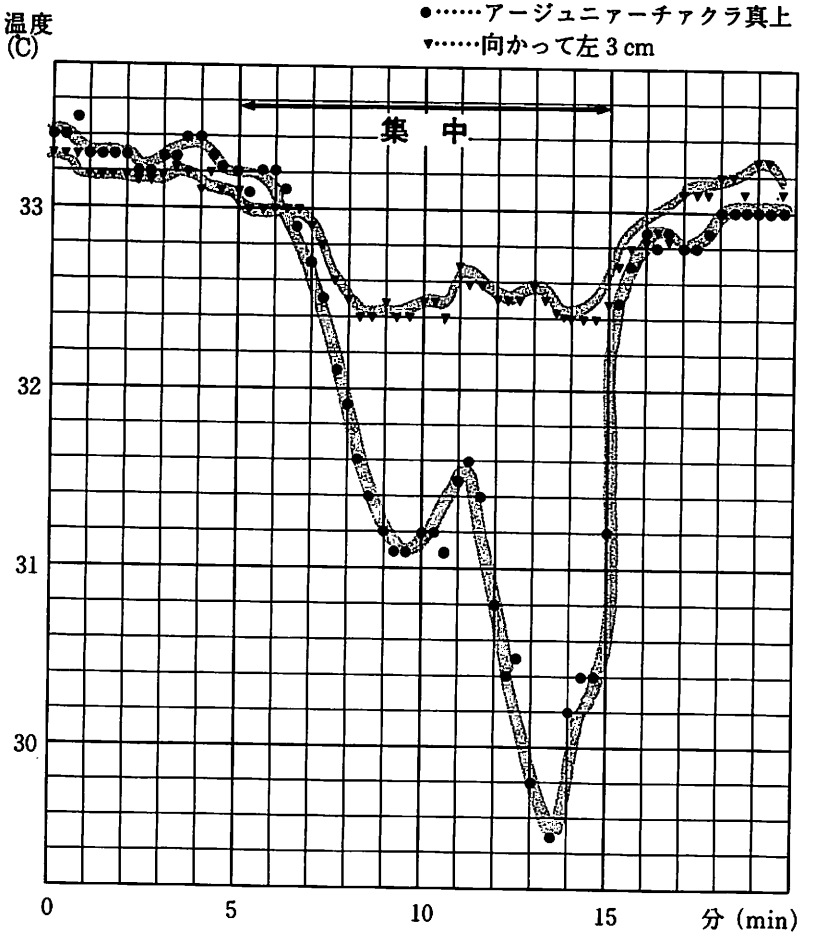
中をしない、という条件でチャクラの温度を測定しました。

聖者サンジャヤ　まず全体的な結論を申し上げますと、グラフに表われているように、眉間に精神集中したとき、ステージの高い者ほど大きく温度変化が表われています。

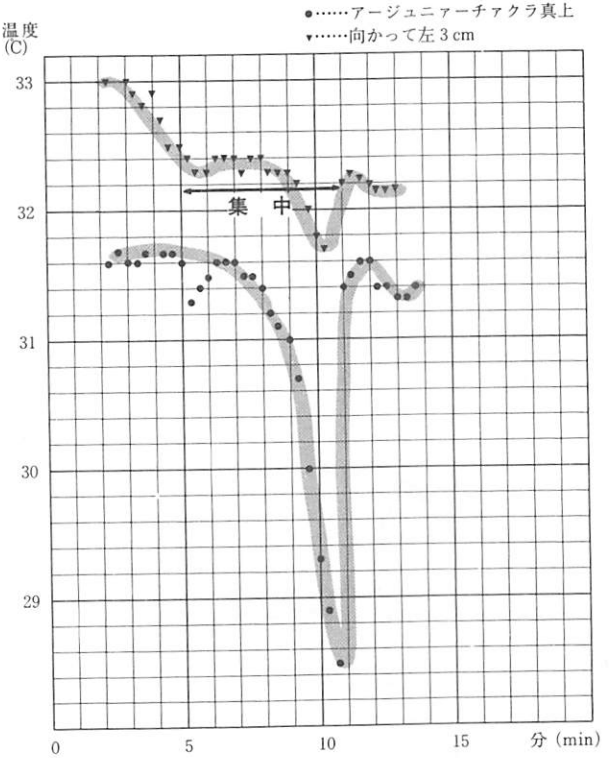


これが温度が低下した例です。また、アージュニャー・チャクラが存在しているといわれている位置と別の位置で、温度変化を比較したのですが、まずはグラフをご覧ください。

聖者サンジャヤ　これは、クンダリニー・ヨーガの成就者（聖者ヴァジラアバヤ上流師）の場合です。この場合、眉間の中央は3.5度下がっているのに対し、左3cmのところでは、0.5度しか下がっていません。



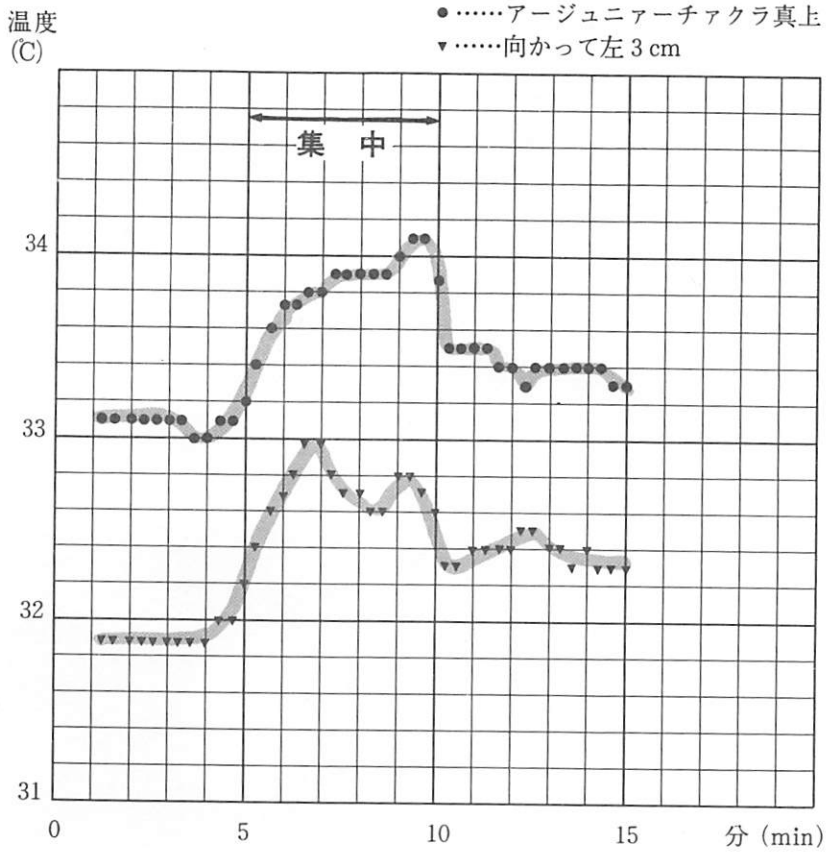
聖者サンジャヤ　これは、ラージャ・ヨーガの成就者（スワミ・タントラアバヤー）の場合です。この場合も、眉間の中央は3度下がっているにもかかわらず、左3cmのところはほとんど温度変化が見られません。



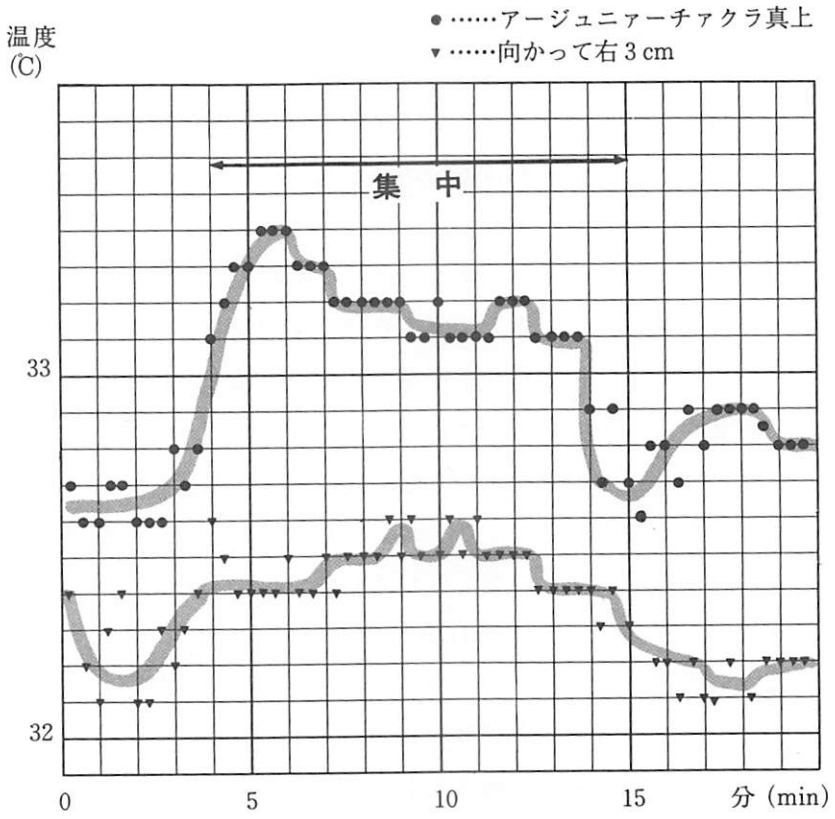
聖者サンジャヤ　このように、眉間の中央が、眉間の周辺部より温度変化が大きいという結果が得られました。

ただ、その一方で、温度上昇を示した例も見られましたので、ご紹介しておきましょう。データとしては、被験者23人のうち6人が温度上昇を示しました。

これは、クンダリニー・ヨーガの成就者のグラフですが、ご覧のように、中央のアージュニァー・チァクラが存在するといわれている箇所では、1.0度の温度上昇が見られました。



聖者サンジャヤ　これは、ラージャ・ヨーガの成就者のグラフですが、ここでも0.7度の温度上昇が見られます。



温度低下型と温度上昇型

松原　なるほど。ところで尊師、先週の番組で尊師は、「その人の温度上昇、あるいは温度低下は、その人が行なっている修行法、あるいは瞑想に関している」というお話でしたよね。例えば、具体的には温度低下型の人はテーラヴァーダ型の修行を実践されていると、それから温度上昇型の人はタントラの修行をされているということでしたよね。その「テーラヴァーダ」それから「タントラ」といったような言葉の意味も含めて、もう少しわかりやすく説明していただけますか。

尊師　まず「テーラヴァーダ」とは「上座部」と訳されます。この上座部とは何かというと、要するに、原則的な徳あるいは善の体系を実践し、そしてそれを根本として、煩悩を滅尽することによって歩いている実践者である、ということができます。

一番わかりやすい例からいうならば、ある人が恋をしたとしましょう。とうぜん恋をすればその人の心は燃えます。これはとうぜん、体温の上昇にもつながるわけです。そしてその、燃える要素を完全に止めてしまう修行を行なう体系がテーラヴァーダであるということができます。つまり、熱を発生させないと。それは心においても熱を発生させないし、肉体においても熱を発生させないと。それによって煩悩を生起させない修行、これがテーラヴァーダの修行です。

次に例えば同じように恋をしたと。その恋をできるだけ強く恋をすると。それによって強い熱が発生します。その発生した熱を特殊な呼吸法やあるいは特殊な瞑想法によって上昇させること

にします。するとその上昇した熱によって、上部の肉体をまあ取り囲んでいる７万２千本の霊的な管があるわけですが、その上部を浄化すると。浄化することによって意識の移動が速やかとなり、そして最終的にはその管の一番上もその熱によって浄化してしまうと。――もちろん、この熱の発生と管との関係においては、とうぜん、圧力の働き等々の働きがありますが、ここではそこまでは言及しないことにしましょう。そしてその方法を、「タントラヤーナ」といいます。「タントラ」とは、秘密のマントラ修行、つまり秘密の神々の言葉を唱えることによって、それを達成する修行であるということができるでしょう。

温度低下型	→	テーラヴァーダ
温度上昇型	→	タントラヤーナ

自律訓練による温度上昇との違い

松原　ところで、自律訓練をすることで自己の体温を変化させることができる人がいるんですけれども、今回の実験は、そのようなものと関わりが少しはあるんでしょうか。

聖者ヴァジラティッサ　それはまったくないでしょう。自律訓練法というのはヨーガの一部でしかすぎません。自律訓練法で、確かに、体温の変化をさせたという例はあります。この場合、血流が増えることによって体温が上昇し、血流が減ることによって体温は下降します。

ここで結論を言ってしまえば、チァクラの温度上昇と自律訓練法の温度上昇に関して決定的な違いは、チァクラが開発されて温度変化が生じた場合、様々な神秘的な体験が生じるということです。

尊師　それについて、わたしも少し付け加えさせていただきたいと思います。わたしの弟子の中で自律訓練ができる人がいました。で、その人は、修行に入り、なかなか神秘的な体験をしなかったと。そしてまあ特別な修行を２年間達成して、初めて神秘的な体験をするようになりました。で、そのときの精神集中というものは、潜在意識に入るような精神集中、つまり自律訓練の精神集中は潜在意識に入る精神集中であると。ところが、成就者の精神集中は、潜在意識に入った状態での集中である、という違いがあるんではないかとわたしは思います。

チァクラに対する精神集中と神秘体験

松原　なるほど。ところで実験の最中に、何かチァクラに精神集中することで、特別な神秘的な体験をしたとかいったような例はあったんでしょうか？

豊田　はい。眉間の温度が低下している際に、光を見たという体験が何例かありました。それから、同じように温度が変化しているときに、空中浮揚の前段階であるダルドリー・シッディが起こりかかった例もありました。

松原　なるほど、そうですか。

ところで尊師、この体験にはどのような意味があるのでしょうか。

尊師　まず、このアージュニァー・チャクラの部分には「第３の目」が存在しています。この第３の目というのは、この世の中だけではなく異次元の空間、あるいは高い次元の空間を見る力が宿っているといわれています。

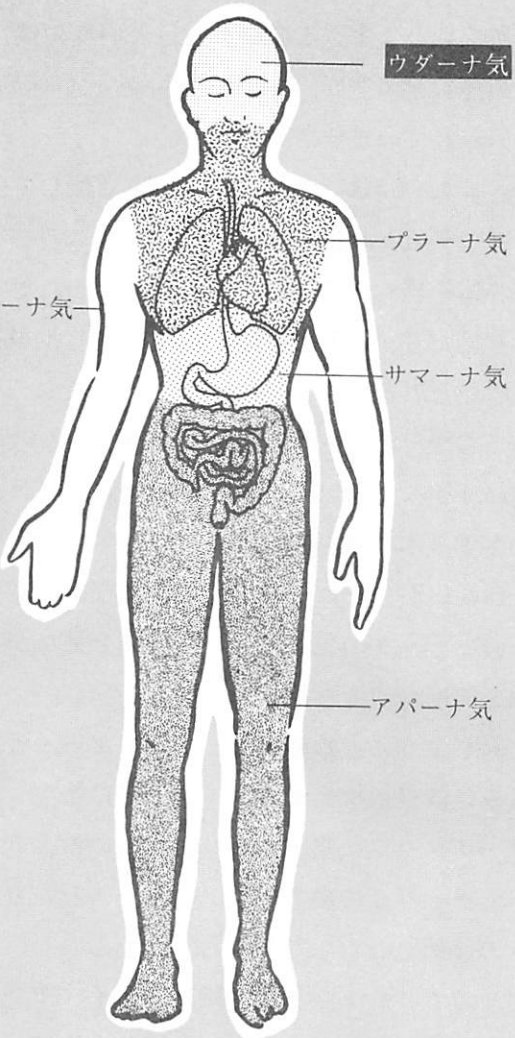
それからもう一つは、このポイントを支配しているエネルギー、これはウダーナ気と呼ばれるわけですが、このウダーナ気はわたしたちの身体を軽くする働きがあります。したがって精神集中によって光を見たり、あるいは体が軽くなる前兆が起きるということは、当然だと思われます。

尊師　ところで、これらの神秘的な体験というのは、あくまでも序の口というか、入り口にすぎないと。例えばわたしたちが小さいときにまず２本の箸を持ち、まあロシアの方はフォークとナイフかもしれないが、それを自在に使うようになるためには、しっかりとそのフォークの先、あるいは箸先を見ながらコントロールする訓練を何度も何度も行ないます。

これと同じように、始めはアージュニァー・チャクラに集中したり、あるいはヴィシュッダ・チャクラに集中したり、あるいはアナハタ・チャクラに集中したり、いろいろ、チャクラに集中しながらそのチャクラの働きをコントロールしたり、あるいはそのチャクラの経験をわたしたちはします。しかし、それがどんどん発達してくると、ちょうど無意識に、ナイフやフォークを使ったり、あるいは箸を使ったりするのと同じように、わたしたちはこれらのチャクラの働きを自在に使いこなすことができるようになります。

例えば、マハームドラーの成就をなした者というのは、だいたい相手の心を自在に読み取ります。これは、マハームドラーの本

五気の図



ウダーナ気——超能力・空中浮揚のエネルギー

ウダーナ気は鼻先から頭にかけて働いている。エネルギーを上昇させる。そのため、気分が沈んでいるときに、ここに精神を集中すると気分が高揚する

他の気については、真理探究シリーズ①『検証 死(サマディ)』を参照のこと

質が、心のヨーガである、つまりアナハタ・チァクラとたいへん深い関係のあるヨーガであることからきています。

例えば、わたしにもたくさんの例がありますが、インドのヒマラヤの一部にわたしの前生のグルがいたわけですが、そのグルが亡くなるときに、わたしは日本でそのグルが亡くなることを、グルとの対話、そして神々との対話によって知りました。とうぜんこれは、そのとき使われたのはヴィシュッダ・チァクラが使われたわけです。

あるいは、ヒマラヤにいるときに、日本の状況を見ることができたわけですが、これは第3の目、アージュニァー・チァクラによって見ることができたわけです。

そしてこれらの現象は、わたしの弟子たちにおいては瞬間瞬間ではありますが、たくさんの実体験があります。そしてその実体験にとらわれず、修行を続けることによってよりいっそう大きなダイナミックな体験をするようになるのです。そして最終的には、それらすべての経験をし尽くしたのち、プラーナはサハスラーラ・チァクラから撤退するのです。

他の要素による証明

松原　なるほど。ところで、今回の実験で人体に存在する霊的センター、「チァクラ」の存在が、おぼろげながら証明されたようなかたちになってきましたけれども、ところで聖者サンジャヤ上流師、オウム真理教ではそのほかにも様々な実験をやっているというふうに聞いてるんですけれども。

聖者サンジャヤ　はい、温度のほかにも、チァクラの別の要素に

着目して、実験を進めています。

松原　といいますと。

聖者サンジャヤ　例えば、チァクラの部分の発する電場を測定することによって、その存在を検証しようと考えています。

松原　それは興味深いですね。その実験についてお伺いしたいところなんですけれども、時間が来たようです。それでは、番組の締めくくりとして、尊師のほうから何か一言コメントをいただけるでしょうか。

オウム真理教の存在意義

尊師　精神的な世界、これは確かに存在すると多くの聖者方が今まで言ってこられました。しかし、その精神的な世界の存在は、ある意味での偏った科学かぶれをした人たちにとって、否定されてきたというのが実態です。したがって逆に、彼らの使用している武器である科学、これをもって反証する以外に、つまり、その世界は存在するんだと証明する以外に、この地球人類の、正しくない方向へ進んでいる科学文明を修正することは不可能なように思われます。そしてその一助として、わたし、それからわたしの弟子たちが役に立つならば、それはオウム真理教の存在が大きな意味を持つこととなるでしょう。

さあ皆さん、あなた方もわたしと一緒に、この未知の世界を探究しようではありませんか。

第1章　チャクラの科学的検証 Part4

世界各地の神秘思想にその痕跡を見ることのできる「チャクラ」は、ヨーガ経典には「力の湧き出る泉」「無限に回転する輪」などと表現されています。そして「チャクラ」を開発すると、あらゆる能力はアップされ、常識では考えられない神秘的な力さえ身につけることができると記されています。超健康体の獲得、睡眠時間の減少、記憶力・思索力の増大……。そればかりでなく、透視能力、他人の心を読む力、神々の声を聞く力、そして、あらゆる願望をかなえることも可能なのです。

しかし、「チャクラ」の存在は、医学的・解剖学的に確認できないため、これまで広く一般に知られることはありませんでした。そして、この「真理探究」では、科学的に「チャクラ」の存在を検証しようと試み、前回ご紹介した実験によって、ついに「チャクラ」の存在を科学的に確認することができたのです。

今回も引き続き、この「チャクラ」の存在を科学的に検証していきましょう。

尊師説法「電場とチャクラ」

こんばんは。麻原彰晃です。

今回は、前回のチャクラについての考え方をもう一歩進め、電場とチャクラとの関係について検討してみましょう。

もともと、わたしたちがこの人間として生を受け、そして、いろいろなカルマの働きによって、原因・条件・結果というものを繰り返し繰り返し経験しているわけですが、わたしたちがチャクラを開発することにより、その原因・条件・結果の中の、原因が同じだとしても条件とそして結果とがとうぜん変わることになります。

ある雑誌社の人の前で、チャクラの働きについて実験をしたことがあります。この実験は、そのチャクラから発生する電場の働きがどのようなものであるかということを、オシロスコープによって観察するものでした。とうぜん、結果は通常の人の電場の状態と、そしてわたしの電場の状態とでは大きな違いが生じました。この違いは、要するに複雑な、そして微細な多くの波が検出されたということです。

ここで一つ皆さんにお断りしておかなければならないことは、この電場というものは、その発生した電場と反対側の極の電場を引きつけるという働きがあるということです。これはよく、超能力を有する者に物質を集める能力が存在するようになるわけですが、これらの働き、あるいは物質だけではなく、他の人たちの違った要素の心の人を引きつける働きが、ここらへんに原因とし

て隠されているのではないかとわたしは考えています。

しかし、これらについてはまだまだ研究をする必要は存在します。しかし、これは単なる電場に対する影響だけではなく、とうぜん磁場に対しても大きな影響を与えることとなります。

わたしの研究では、「文明の発達するエリアは、必ず非双極子[*1]磁場がプラスへと傾く」——これは、今から数百年前からの非双極子磁場の働きを世界の文明と合わせ検討した結果、このような現象がわかりました。しかし、過去の現象がいくら的中したとしても、未来の現象が的中するかどうかはわかりません。本当にその理論が正しければ、次の偉大な文明が成立するエリアは日本であるということになります。というのは、この非双極子磁場のピークは、これから約四十数年後にその中心が日本へと移るからです。確かに、ノストラダムスの予言等を検討すると、日本にキリストが現われ、そして21世紀に新しい文明を遺すと予言されているわけですから、これも不思議な現象ではないのかもしれません。まあともかく、これらの電場や磁場、これらの実際の内容がもっとよりわかるようになることにより、逆にわたしたちの生命活動の本質、あるいは精神活動の本質というものがよりいっそうわかるのではないかとわたしは考えているのです。そして、それらを追究すること、これこそが21世紀のわたしたちに課せられた使命ではないでしょうか。

＊1 非双極子磁場　地磁気の分布は、地球の北極に磁石のＳ極、南極にＮ極を置いたときの磁場の分布で近似できる。この磁場を「双極子磁場」という。しかし、実際の地球上の各地点における地磁気は、様々な要因により、双極子磁場と異なる値を持つ。この実際の地磁気と双極子磁場のズレ、すなわち、地磁気から双極子磁場を引いた場を、地球の両極に置かれたＮ極、Ｓ極の双極子に基因しない磁場の成分という意味で「非双極子磁場」という。

対　談

チャクラの開発によって得ることのできる素晴らしい能力

松原　今回も引き続き物理的実験によりチャクラの存在を検証していこうと思います。その前に、このチャクラについてもう一度説明していただけるでしょうか。

尊師　前回と同じ説明をここで繰り返すとするならば、これを連続で見ている人にとって失礼にあたりますので、別の角度からチャクラについて説明をしたいと思います。もちろん一部は重複します。

まずわたしたちの尾てい骨に宿るムーラダーラ・チャクラ。このムーラダーラ・チャクラはわたしたちの体温を上昇させる源です。そしてこれによって超健康体が得られます。

次に性器よりやや上方にあるスヴァディスターナ・チャクラ。このスヴァディスターナ・チャクラが開発されますと、もともと性的快楽に使われていたエネルギーが体全体に回り、そしてそれによってわたしたちの生命活動が活発になることにより、短眠およびものすごいバイタリティーを有するようになります。

そして第3番目のこのマニプーラ・チャクラが開発されますと、わたしたちは「バルド」と呼ばれるこの人間と別の次元の空間へ別の身体によって移動し、そこでいろいろな経験を行なうことができるようになります。

第4番目のこのアナハタ・チャクラが開発されますと、その別

の身体がより高い次元へと移行し、そしてそこでわたしたちは自在に欲望を満足させることができるようになります。

そして第5番目のこのヴィシュッダ・チャクラが開発されますと、わたしたちのこの身体や、あるいは環境を構成しているカルマのコントロールができるようになり、それにより自在に自分自身の状態を変化させることができるようになります。とうぜんこのときには瞑想中でなければなりません。

そして、このアージュニャー・チャクラが開発されますと、いかなる光の空間へも移動できるようになります。

そして最終的にこのサハスラーラ・チャクラが開発されますと、わたしたちはこの肉体から離脱し、解脱することができるようになるのです。

もちろんこのほかに、今までも説明したとおりの6つの神通力やあるいは他のチャクラの要素というものが備わることは間違いありません。

松原　ありがとうございました。

電気的変化による検証

松原　それではさっそく今回の実験に話題を移したいと思いますが、今回はどのような実験を行なったのでしょうか。

聖者サンジャヤ　前回は、アージュニャー・チャクラの存在するといわれる部分に精神集中し、その温度変化を測定することでその存在をとらえようと試みました。その結果、チャクラの存在が科学的に証明されたわけですが、今回は、それよりもある意味で微細な変化、つまり、電気的変化をとらえることで、その存在を

検証しようと考えています。

聖者ヴァジラティッサ　それについてちょっと補足いたしましょう。修行の進んでいる修行者は、チャクラに集中することで、そのチャクラの部位がしびれる感覚を覚えることがあります。この感覚は、とうぜん神経を介したものですから、そこで何らかの電気的な現象が起こっていると考えられます。ですから、チャクラの存在を電気的な変化によってとらえるという試みは、面白いし、また納得のいく実験方法だと思います。

尊師　皆さんもご存じのとおり、わたしたちの体に存在している神経系、そしてこれと大きな関係があるホルモンの系統、この2つはわたしたちの瞑想が完成するために不可欠な要素であると思われます。というのは、ある弟子が修行を始めたのちどのような経過をたどるかを観察した場合、必ず煩悩が弱まり、肉体のエネルギーが上昇を始めると、先程ヴァジラティッサ師が言ったとおり体がしびれます。で、この体のしびれは必ず下部からしびれ、最終的には頭全体がしびれるようになります。そしてそこで固定が起き、次に別の身体が抜け出すわけです。ところでこの〝しびれる〟という現象の最後の段階で、このサハスラーラ・チャクラの部位から「甘露」と呼ばれる液体が体の中に滴り落ちるようになります。この甘露は、現代の生理学で[*2]エンドルフィンと呼ばれているものがあるわけですが、おそらくこの物質と同じものではないかと思われます。これにより、わたしたちの体は静まり、そして完全に固定され

*2　エンドルフィン　モルヒネ類似の作用を持つペプタイドで、体内で合成される。脳から発見されたが、現在では全身に分布していることが判明している。α、β、γ、δの4種類があり、その作用は鎮痛、惰動、体温、ホルモンの分泌など多岐にわたる。中でもβエンドルフィンの鎮痛作用は、特に強力である。

るのです。このエンドルフィンはいつ出るかというと、わたしたちの死のときに再製され、そしてそれによってわたしたちは安楽な死ができるという学説がありますが、まさにその死を体験することを目的とするヨーガの瞑想修行にとって、このプロセスは不可欠となることでしょう。

松原　ありがとうございました。それでは、実際の実験について説明していただけるでしょうか。

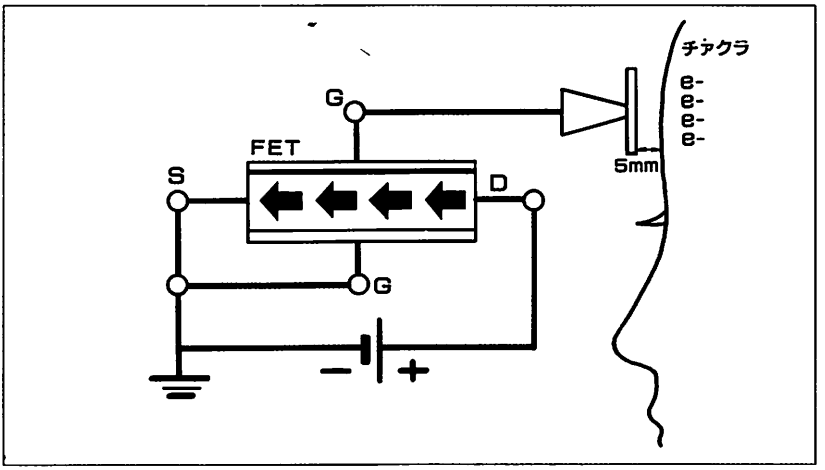
聖者サンジャヤ　はい。電気的なものといった場合、電気的な変化と、そして、磁気的な変化の２つが考えられます。今回は、電気的なものに着目して実験を行ないました。

測定装置としては、ＦＥＴ、つまり、電界効果トランジスタという素子（そし）があるのですが、これを用いてアージュニァー・チァクラに電気的な変化が生じるか、ということを調べました。この測定装置の原理については、次の図をご覧ください。

今回使用したＦＥＴは、ドレインＤとソースＳ間に電圧をかけただけでは電流は流れません。ところが、チァクラに生じた電荷により電場が生じ、プローブの金属版に電荷が誘起されると、ゲートＧに電圧が加わり、電荷に応じた電流が流れるようになります。その電流値を測定することにより、生じた電場、電荷の量がわかります。

豊田　つまり、この装置では、電荷の変化がわかるわけですね。

聖者サンジャヤ　測定方法は、まず、アージュニァー・チァクラの位置の真上５mmのところに、電場を感知するセンサーをセットします。そして、３分間リラックスの状態、次に５分間アージュニァー・チァクラの位置に集中した状態、そして最後の３分間はリラックスした状態で、被験者のアージュニァー・チァクラの部



分の電場を測定しました。

松原　ちょっと気になるんですが、前回の実験でチャクラに集中することにより、眉間に温度変化が生じたのが明らかになったわけですよね。

聖者サンジャヤ　はい。

松原　今回の実験で、この温度変化がセンサーの精度に影響を与えているというようなことはないんでしょうか？

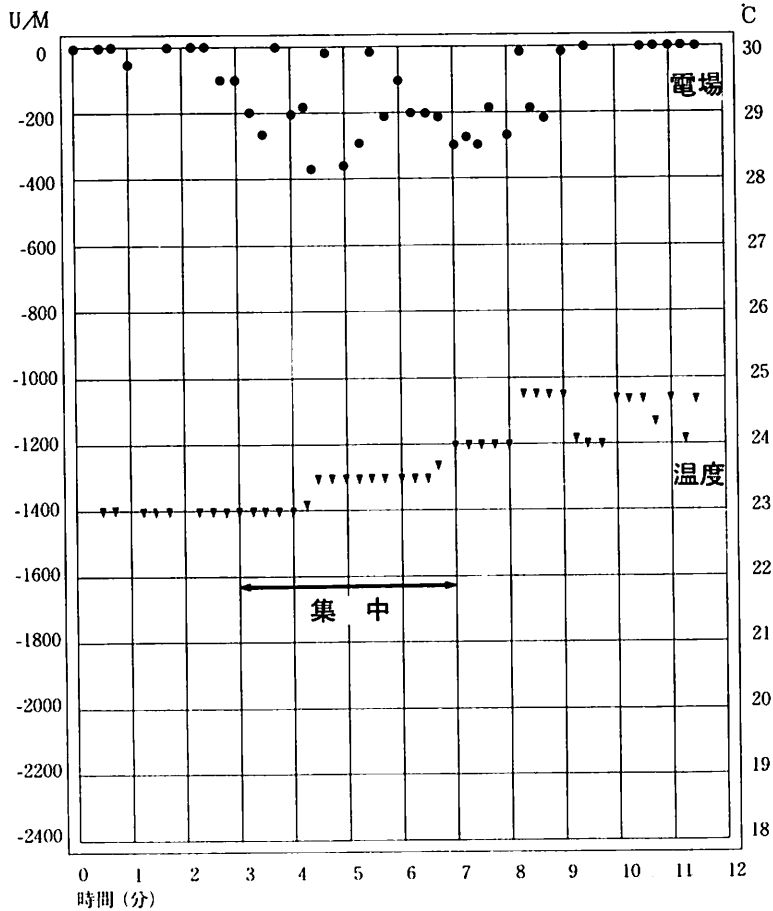
聖者サンジャヤ　センサーが温度変化によって誤った反応をするということですね。それについては大丈夫です。というのは、今回は、電場と同時にセンサーの部分の温度変化も同時に測定します。ということは、そのとらえられた変化が温度変化によるものかどうか、これはセンサーの部分の温度変化を見ることによって、判別できます。

松原　なるほど、じゃあ、万全の姿勢で実験に臨まれたわけですね。ところで、結果のほうはどうだったんでしょうか。

聖者サンジャヤ　ではグラフをご覧ください。

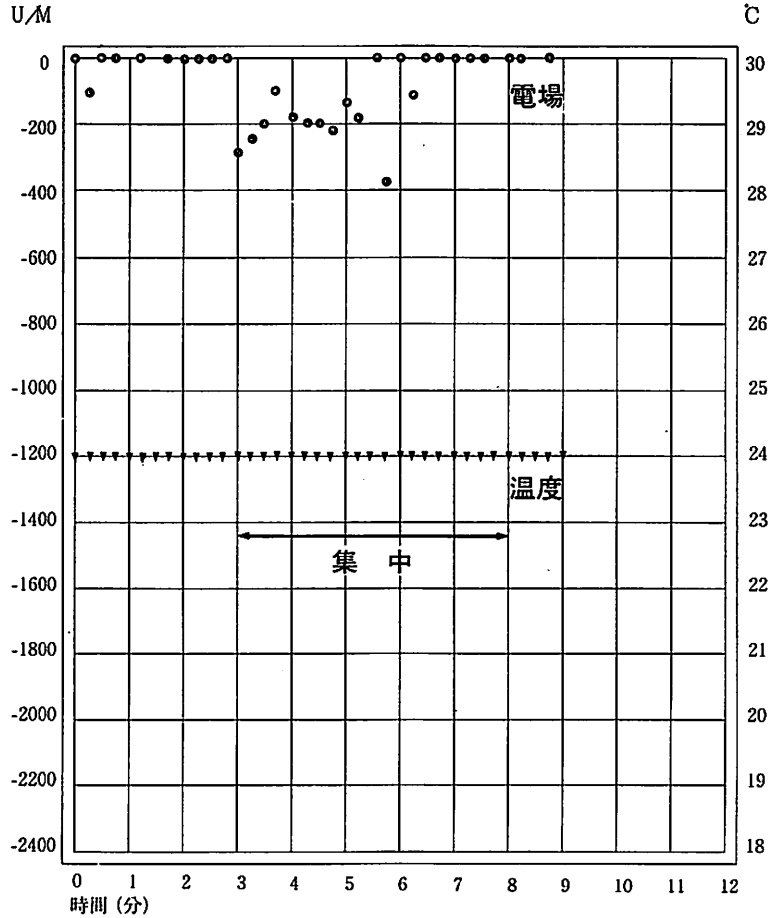
聖者サンジャヤ　グラフ１はクンダリニー・ヨーガの成就者を被験者にしたものです。ここで額の法線方向の電場の向きを正としています。ご覧のように、アージュニァー・チァクラに集中しているときに、負の電荷を起因とすると考えられる電場が生じています。測定中、センサーの温度は一様に上昇している一方で、電場は集中しているときのみ生じているので、この電場の変化が温度変化によるものでないことがわかります。

グラフ１



聖者サンジャヤ　グラフ２はラージャ・ヨーガの成就者を被験者としたものです。やはり集中しているときに電場が生じています。このとき、センサーの温度変化はありません。このように、集中によってアージュニァー・チャクラの部分に負の電化が生じたことがわかります。

グラフ２



聖者ヴァジラティッサ　なるほど。精神状態と電気的な状態は、密接なつながりがあるんですね。

聖者サンジャヤ　そうですね。

尊師　ヨーガの修行によっては物質元素を変えることができるようになる。まあこれは、錬金術的な働きなわけだけども、その前段階の証明としては、今回の実験はたいへん有意義ではないかと思います。最終的には例えば、水銀を金に変えるとか、そういう神秘的な力が存在するといわれています。これらはもう少し修行が進んでくると、単なる電荷を変えるだけではなく、実際の例えば電子を飛ばしたり、あるいは中性子・陽子の個数を変化させることによって、このような現象が起きるんだということができるでしょう。そして、もしそこまでわたしたちが証明できるとするならば、唯心的物理学というものの確定につながるのではないかと思っています。

測定技術の限界点

松原　ところで、前回の温度変化の実験、そして今回の電場の実験でですね、チャクラの存在が検証されたのではないかと思いますけれども、磁気的なものでも、チャクラの存在を検証できるんではないかと思うんですが、そのへんについていかがなんでしょうか。

聖者サンジャヤ　磁気についての実験も、やっていこうと考えています。

聖者ヴァジラティッサ　それは面白そうですね。

ところで、こんな話があるんですよ。実は、これは科学的な実

験を行なって検証したわけではないんですが、わたしのアージュニャー・チャクラから出ている光を、2人のクンダリニー・ヨーガの成就者が透視したんです。そのときに、見え方が一致していたというんですね。

尊師　異次元の世界についての証明は、確かに機械的な証明も必要だけども、まあ今ヴァジラティッサ師の言ったとおり、多くの人たちがそのような能力を開発し、そして実際に視覚的に見ることによって、それを検証する方法もあるんではないかと思います。というのは、例えば、測定技術というものは、その測定機の微細さ以上の微細なものを測定することはできないという欠点があるからです。これについては豊田君、どう思うか。

豊田　そうですね。やはり、現代の測定機では、ある程度以上に微細なものは計測できないと思われますね。

聖者ヴァジラティッサ　要するにチャクラの世界は、神秘的な現象の一面を測定しているにすぎないということですね。

尊師　しかし、その測定限界内で、いろいろな角度で検査をすること、あるいは科学的に検証することは、不可欠だと思います。したがって先程、サンジャヤ師が言ったとおり、次は磁場による実験を行なうというのは、これはまた素晴らしいことじゃないだろうか。

松原　それは楽しみですね。

精神文明を発達させる実験

尊師　そしてこのように今、自分たちの行なっている実験は何を

目的としているのか、そしてその目的以上の結果が出なくとも、目的の結果が出れば十分であると考え実験すること、これは、これからの精神文明を発達させるうえにおいては、たいへん重要なことだと思います。

第1章　チャクラの科学的検証 Part5

前回の「真理探究」では、「チャクラ」の存在を証明するための一つの手段として、眉間に存在するといわれているアージュニャー・チャクラの部位を電気的な実験を用いて調べてみました。具体的には、アージュニャー・チャクラに集中しているときと、していないときのそれぞれについて、その部位の電場の変化を測定したわけですが、その測定結果から、クンダリニー・ヨーガの成就者とラージャ・ヨーガの成就者について、彼らがアージュニャー・チャクラに集中しているとき、その部位に負の電荷に起因すると考えられる電場が生じたのです。

今回の「真理探究」では、測定された電場の原因が眉間に発生した電荷に起因しているのかどうかを実験により調べ、被験者の眉間に発生した電場の強さと被験者の霊的ステージの間の相関関係を探っていこうと思います。

尊師説法「文明をつくり出す２つの要素」

こんばんは、麻原彰晃です。

人間が文明をつくり出すとき、そのつくり出し方には２つの要素があると考えることができます。その１つの要素は、まさに現代文明の、つまり「バベルの塔」方式、そしてもう１つは、神々からの啓示を受けてできあがる文明の２つです。

この前者は、いろいろな経験を土台とし、その経験に対して解析的な検討を加え、そして一つ一つを消化していく。そしてその消化した段階で、また次の新たな課題へと挑戦する。これは、共産主義体制の根本的な理念である「弁証法的唯物論」の考え方とまったく同じであるということができます。

逆に、天からの啓示を受けて、発達する文明があります。これはわたしたちの身体に内在している７つのチャクラ、つまりムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラ、マニプーラ・チャクラ、アナハタ・チャクラ、ヴィシュッダ・チャクラ、アージュニャー・チャクラ、サハスラーラ・チャクラという７つのチャクラがあるわけですが、この７つのチャクラの下から順に、意識は、高い意識の経験と同時に、鋭い集中力と、そしてその世界でのいろいろなヴィジョン、つまり経験をなすことができます。そしてそれを土台として、それを具体的な現実の、例えば数学的な技法等を使い、発達する文明、これがまさに天からの啓示の文明ということができるでしょう。

そして、現代文明の中でも、例えばアインシュタインの相対性

理論等については、この後者の文明に属することができます。しかし、わたしたちはわたしたちの文明が最高であり、限りないものであるというふうに考えます。この、誤った見解、つまり謬見解によって、「バベルの塔」方式の文明は必ず崩壊するのです。ではなぜ、必ず「バベルの塔」方式の文明が崩壊するのかというと、とうぜん下から積み上げていく場合、それに伴った意識、つまりそれを使いこなせるだけの精神的な素養がない限り、とうぜん高度な影響を与え、それによって受けることになるからです。

つまり、例を挙げましょう。わたしたちが自転車で、ある物体に対してぶつかった場合と、それから自動車で、ある物体に対してぶつかった場合を検討しましょう。これはとうぜん、スピードが出ていれば、自動車のほうがより高いスピードが出るわけですから、強い破壊と同時に強いショックを経験することになります。

これがまさにカルマの理法なのです。つまり、わたしたちがなしたすべての行為というものの因、条件、そして結果と。この関係は、小さな現象にしろ、大きな現象にしろ、変わることはありません。変わることがないということは、わたしたちが小さな現象を、例えば小さな悪い現象を動かすとき、この小さな悪い現象はわたしたちに小さな悪い果報を与えます。しかし逆に、大きな悪い現象を動かすとき、大きな悪い果報をわたしたちは受けなければならないのです。

そして、この「バベルの塔」方式の科学文明の発達は、精神的な進化を伴っていませんから、とうぜん原因が増大すればするほど、大きくなればなるほど、その果報である結果というものを大きく受けなければならないのです。

そして、いにしえの科学文明は、この後者に属しました。いに

しえの科学文明は、まず霊的な進化、神々とのコンタクト、高い世界をヴィジョンで見ること、これからスタートします。そしてその、見たものをいかに具体化するかということに科学技術者と呼ばれる人は集中し、そしてそれによって文明を築き上げたのです。

しかし、その人類、つまり今の人類と違う人類は、徐々に徐々に堕落へと移行します。ではなぜ、堕落へと移行するのか。それは、あまりにも科学文明が与えてくれる「安楽」というものは、わたしたちが想像している以上に大きな喜びをわたしたちに与えてくれたからです。そして、その大きな喜びなるがゆえに、わたしたちは怠惰となり、そして精神的な向上を目指そうとしなくなりました。それによって、古代文明と呼ばれる、例えばアトランティス文明や、あるいはムー文明と呼ばれるもの、あるいはムー文明から移行したエジプト文明、これらはすべて滅んでしまったのです。

わたしたちは、ただ一つ生き残る道、ただ一つより幸福になる道を、得る選択肢があります。それは何か。それはわたしたちがわたしたちの霊的な進化を遂げること、わたしたちの心の成熟を遂げることによってのみ、わたしたちは今の文明に打ち勝ち、より幸福な人間の人生というものを送ることができるのです。そしてあなた方がこのことに気づき、今日から、あくまでも現実的な生活は外的な喜びであって、それはちょうど道具のようなものであると認識し、それから脱却したとき、このロシアも素晴らしい、世界で最高の文明を有する国になるのではないでしょうか。

対　談

欲界の最高地点ーアージュニァー・チャクラ

松原　前回は、チァクラの存在を証明するための一つの手段として、アージュニァー・チァクラの部位を電気的に調べてみたわけなんですけれども、このアージュニァー・チァクラについて、前回とはまた別の角度から説明していただけるでしょうか。

尊師　このアージュニァー・チァクラというのは、ムーラダーラ・チァクラからアージュニァー・チァクラ、サハスラーラ・チァクラに至る中心的なセンターがあるわけだが、そのセンターの前面の部分の終点、これがアージュニァー・チァクラです。で、このアージュニァー・チァクラが通るということは、一般にこの欲界の最高の地点へ到達するといわれています。

松原　ありがとうございました。

ステージと電場の強さの関係

松原　それでは前回の実験について、もう一度説明していただけるでしょうか。

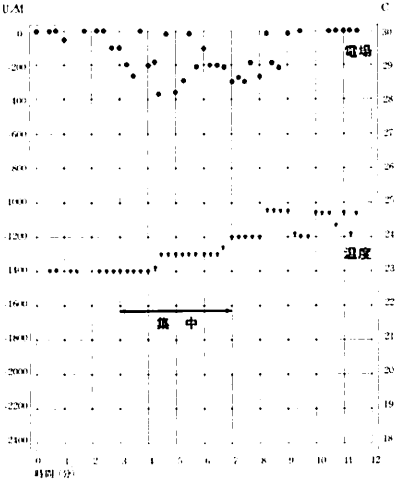
聖者サンジャヤ　実験方法についてご説明しましょう。

実験装置としてはＦＥＴ、電界効果トランジスタをセンサーとした、電場を測定する装置を作成しました。この装置のセンサーを被験者の眉間の上５mmのところにセットし、はじめの3分間

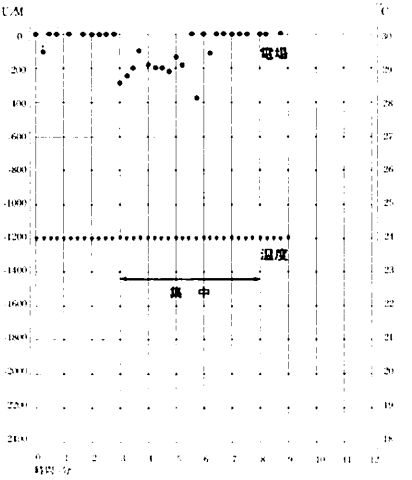
はリラックスした状態、次の5分間は眉間に集中した状態、そして、最後の3分間は、再びリラックスした状態で電場の変化を測定しました。

松原　それで、結果はどうだったんですか。

豊田　クンダリニー・ヨーガの成就者とラージャ・ヨーガの成就者についていうならば、アージュニァー・チャクラが存在するといわれている眉間の部分に、電場が測定されました。



クンダリニー・ヨーガの成就者



ラージャ・ヨーガの成就者

豊田　そしてこの電場は負の電荷によるものであると考えられたわけです。これが前回の実験結果でした。

松原　質問があるのですが、よろしいでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい、どうぞ。

松原　前回の番組では、成就者の場合は、電場が発生したのはわかったんですけれども、この現象は成就者のみに見られる現象なのでしょうか。一般の人の場合は、どうなんでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。それについては下の図をご覧ください。

ステージと電場の強さ

●が被検者１人

電場 (V/m) ／ ステージ	0	0〜100	100〜200	200〜300	300〜400	400〜500	500〜600	600〜700	700〜800
クンダリニー・ヨーガの成就者			●●		●				●●
ラージャ・ヨーガの成就者			●		●				
非成就者	●	●●●	●						

聖者マンジュシュリー・ミトラ　この図は、ステージと測定された電場の強さの関係を示したものです。確かに、非成就者についても電場は発生しているケースはありますが、この人たちすべてに共通して見られる特徴としては、彼らは全員、オウム真理教で数年間の修行歴があるということが挙げられます。

豊田　オウム真理教で指導されているような正しい修行をある程度行なえばアージュニァー・チァクラは開く、あるいは活性化します。ですからこれは、アージュニァー・チァクラが開いた修行者に特有の現象であると考えられます。

松原　なるほど。

尊師　これは、クンダリニー・ヨーガのプロセスを熟知するとよく理解できることだが、エネルギーが上昇し、そして次の段階では電気的なしびれというものがこの後ろから前にかけて生じます。そしてまあ、その生じたしびれの最終地点がアージュニァー・チァクラであると。で、この電気的しびれは明らかに電場を発生させることができるぐらいの電気的なしびれをそれぞれの成就者が感じます。ですからまあ、電場が発生したとしても何ら不思議はないでしょう。

"チャクラが開く"とは？

聖者マンジュシュリー・ミトラ　1つ質問があるんですが、「チァクラが開く」とよくいわれますけれども、その"開く"というのはどういう現象と考えればよろしいのでしょうか。

尊師　これは透視をすればはっきりわかりますが、そこの部分に空洞ができます。で、空洞ができるとはどういうことかというと、内側の肉体的な空洞と外側の世界がつながるというふうに考えていいのではないだろうか。つまり、先程も述べたエネルギーのムーラダーラからの上昇によってアージュニァー・チァクラからの道筋がどんどんどんどん浄化されると。で、エネルギーの量がどんどん増大し、最終的にはアージュニァー・チァクラを突き破ると、そういう現象が起きるんだね。で、突き破ったら、透視をするとそこの部分がちょうど空洞のように見えると。しかしその空洞は、明らかにその空洞からしか行けない世界へとつながっている、ということだね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　つまりチャクラが開くことによって、内部のエネルギーを外界に作用させることができるということでしょうか。

尊師　そうだね、そのとおりです。

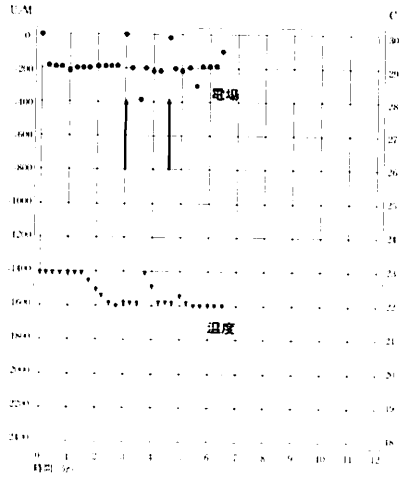
電場と電荷

松原　それでは、次の話題に移りたいと思いますけれども、実験で発生した電場というのは、確かに電荷によるものといえるのでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そのことについて確かめるために、次のような実験を行ないました。その実験というのは、測定中に電場が観測されているときに、チャクラの部位をアースするというものです。このときもし電荷が存在しているならば、アースによって電荷が逃げ、電場が消えることとなります。

松原　それで、その実験結果はどうなったのですか。

聖者サンジャヤ　結果については次の図をご覧ください。



聖者サンジャヤ　この図の矢印のところでアースしたのですが、このとき電場は消えています。したがって、実際に電荷がチャクラの部位に存在するといえます。

松原　そうですか。面白いですね。ところでその電荷はいったいどこから来たのでしょうか。被験者が眉間にしわを寄せたりすることなどによって、筋肉繊維間の摩擦を引き起こし、それによって静電気的な電荷を発生させたというような可能性はないのでしょうか。

聖者サンジャヤ　はい。被験者には単にその部分に集中してもらっているだけなので、その可能性はありません。しかし、この電荷がどこからのものなのかは、残念ながら実験では解明されていません。しかし、眉間に発生した電場の強さと被験者たちの霊的ステージの間には、正の相関関係があったという事実を考えると、この電場の発生は、まだ物理学的に解明されていない霊的エネルギーを解明するうえで、何らかのヒントとなる現象ではないでしょうか。

エネルギーの段階と発生する電場の関係

尊師　わたしたちのエネルギーの段階というものは、一般的にヨーガでは五大エレメントの段階として表現される。このエネルギーの段階は、地元素・水元素・火元素・風元素・空元素という段階でエネルギーは昇華されると。で、この、「地元素」というのは固体成分であると。で、「水元素」はその固体成分の運動範囲が広がった、まあ要するに液体的な状態とそれから水蒸気的な状態を考えればよろしい。そしてその次に現われるのが「火元素」で

ある。この火元素は明らかにプラズマ現象として表現することができる。で、この火元素の段階において頭のしびれが生じるから、間違いなく肉体内の成分を昇華したかたちでの電荷の発生であると見るのが妥当ではないかと考える。これについては修行者を、まあ修行に入り、それからどのようなかたちで進化するかということについて、この「真理探究」によってもっともっと深く研究すれば、必ずはっきりする現象だと思います。

五大エレメント

色	元素	対応する体の構成要素	対応するチャクラ	対応する感覚器官
黄	地	肉	ムーラダーラ	嗅覚
白	水	血液	スヴァディスターナ	味覚
赤	火	体温	マニプーラ	視覚
緑	風	エネルギー	アナハタ	触覚
青	空	空間（肺など）	ヴィシュッダ	聴覚

麻原彰晃尊師著『超能力秘密のカリキュラム』〈オウム出版〉より

聖者マンジュシュリー・ミトラ　ここで、そのステージと測定される電場の強さに相関があるということですが、それは要するに集中する強さとも関係があるのでしょうか。

尊師　意識が昇華して、つまり意識が高い意識状態になって初めて、元素も高い元素をコントロールできるわけだよね。そうなるととうぜん、精神集中とそれから発生する電荷の関係というものはおのずと正の関係が生じるといえるんじゃないだろうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。

元素について

豊田　尊師、その場合の「元素」という言葉なんですけれども、これは普通我々が使っている言葉とは違う意味で使われていると思うんですが。これはどういったものなのでしょうか。

尊師　いや、これについてはわたし自体も自分自身の霊的体験によってしか表現できないけども、やっぱり原因となってるものは、肉体を構成している肉体および食べ物だと思います。そしてそれが消化されて普通は排泄されるわけだが、その排泄されるはずの物が徐々に徐々に排泄機能が静止に向かい、そして徐々に生命エネルギーとのミックスによって、固体的な要素が、まあ液体・気体的な要素に変わり、そしてプラズマ化していくという感じなんだね。

豊田　ということは、いわゆる「元素」よりは微細なものだということでしょうか。

尊師　スタートとして使われる元素は、まったく同じものだと思います。

豊田　なるほど。

尊師　したがって、今の豊田君のその質問に対して付け加えさせてもらいたいが、要するにヨーガでいう「元素」というのは、「要素」と言ったほうがいいのかもしれない。ただ一般的にインドヨーガ、あるいはインド仏教等では「元素」という言葉を使っているから、ここでもいちおうは「元素」という言葉を使っているわけだけどもね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　これは周期率表での原子番号1、2、3、……という、「元素」とは混同しないようにしないといけませんね。

尊師　そうだね。

豊田　わかりました。

遠隔作用について

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そして今回の実験は、額から非接触での測定ですよね。ですから精神集中によって、遠隔的な作用を人間が及ぼすことができるという証明にもなったと思います。

それについてはどうでしょうか。

尊師　このアージュニァー・チァクラというのは特別なチァクラで、現世のすべての願望をかなえるチァクラであるわけだね。だから例えば電荷を発生できるということは、遠隔、つまり遠いエリアに対しても、少なくともその部分における電気的変化を起こすことができる可能性がある、ということが今回の実験でいえるのではないだろうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そう思います。

松原　ありがとうございました。たいへん興味深いお話が続いておりますけれども、そろそろお時間のようです。それでは、番組の締めくくりとして、尊師のほうから何かコメントをいただけますか。

人類が崇高なものへと移行するために

チャクラの中で特にこのアージュニャー・チャクラは、わたしたちがこの現実の生活を生きるうえにおいて、最も有益なチャクラであるということができます。これは今回の番組でもおわかりのとおり、わたしたちがいろいろな自由な生き方をするとき、このアージュニャー・チャクラの働きなしにはそれをかなえることはできません。したがって皆さんが瞑想修行に励み、そしてそれによってより多くの人に利益を与えるような意識を持たれ、そしてこのアージュニャー・チャクラが使われたら、この人類はたいへん崇高なものへと移行するのではないでしょうか。

第1章　チャクラの科学的検証 Part6

人間の持つ神秘力の根源、チァクラ。一般の方にはなじみのない「チァクラ」の存在も、この番組をご覧になっている方には少し身近なものになってきたのではないでしょうか。

さて、前回までの番組では主としてアージュニァー・チァクラについて見てきましたが、今回は腹部に存在するといわれるマニプーラ・チァクラと、胸部に存在するといわれるアナハタ・チァクラについて、その科学的検証を行なっていきたいと思います。

尊師説法「魂の進化とチャクラの関係」

皆さんこんばんは。麻原彰晃です。

人間には、大きく分けて２つのタイプが存在します。それは、「経験を生かすタイプ」と、それから「経験をまったく生かさないタイプ」の２つです。この「経験を生かすタイプ」は、自分自身が経験したこと、これに基づき、一つ一つの命題を解決する方向へと思索を繰り返します。

ところで、わたしたちには身体に７つのチャクラが存在しています。このチャクラは、もうこの番組を何度も見られた方はご存じのとおり、ムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラ、マニプーラ・チャクラ、アナハタ・チャクラ、ヴィシュッダ・チャクラ、アージュニャー・チャクラ、そしてサハスラーラ・チャクラの７つです。この７つのチャクラは、「センター」と呼ばれますが、実際には「世界」であるという認識のほうが正しいように思われます。そして、その世界を構成しているもの、それは何かというと、「意識」なのです。つまり、わたしたちが意識を向上させると、より上位のチャクラへと移行し、その上位のチャクラの世界を経験できるという仕組みになっているのです。したがって、霊的進化イコール意識の進化と呼ぶことができます。

このステップを踏み出す人は、先程も述べた、経験をまず自分自身の命題であると考え、それをしっかりと解くと。それによって、一つ一つ下の世界から経験を終了させる。そして、終了した世界へは振り向きもせず、より高い世界を志向すると。このヨー

ガをインド・ヨーガでは「ジュニアーナ・ヨーガ」、つまり「思索のヨーガ」と呼んでいます。そして仏教も、この思索に重きを置き、熟考と吟味というプロセスをたどり、内なる世界の下の部分から徐々に徐々に捨断し、そしてステップ・アップをするわけです。

この方法によって、普通の人では考えられない、わたしたちは多くの体験をします。その体験の最終段階は6つの神通力と呼ばれるものですが、その前に例えばたいへん同性にも異性にももてるようになるだとか、例えば非常に学力がアップするだとか、例えば非常に音楽的なセンスが出てくるだとか、例えば非常に直感的な力が増すだとかいったような要素が増大してくるのです。

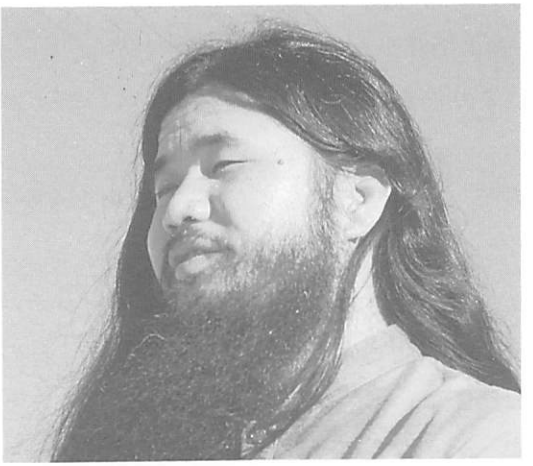
そしてこの理論の背景にあるものは何かというと、もともと人間と神とは本質的に差はないという考え方です。つまり、「神」とは人間の進化した形態であるとする考え方です。そして、実際に、今から2500年以上前に登場した偉大な聖者であるサキャ神賢は、多くの神々と対話し、そして「神々の王」と同時に「人間の王」として、この世界に君臨しました。これらからもわかるとおり、わたしたちが日々少しずつ、努力を積み重ねていくことにより、わたしたちは、今のわたしたち以上の要素を蓄積し、それによって神と何ら変わらない地点へ到達することができるのです。

よく考えてみましょう。キリスト教でも「父なる神」という言葉を使います。果たして、異次元の生命体に対して「父」という言葉を使うことができるのでしょうか。とうぜんその世界へ入ることができるとするならば、それは父なる神と、そして自分自身とが、もうすでに同じカテゴリーに属する生命体であるということができるのではないのでしょうか。つまり、キリスト教におい

ても、「人間と神との差」というものを特別に規定しているわけではないのです。そして、その進化系の延長上に、父なる神への移行が存在します。

もともと仏教では、この父なる神の位置づけを「ブラフマン」、つまり創造主と規定しています。そしてこの創造主へ至る道は、先程述べた、ムーラダーラからスタートし、そしてサハスラーラ・チャクラを貫いてこの肉体から意識が抜け出したとき、創造主の世界へ入ることができる、といっているのです。そして、その意識が個、つまり自己のためではなく、多くの魂のために、その世界への導きを行なうことにより、最終的には父なる神、つまりブラフマンを超し、そして最終的にはすべてを超越した存在、つまり神を超越した存在、真理勝者へと至ることができると説きます。

人は枠組みによって人生を固定されます。あなたがその枠組みを破り、そして神を超越する存在があるのだと確信を持ち、そこへ向かって心が動き出したとき、すでにあなたは、今のあなたではないのではないでしょうか。



対　談

他のチャクラについての実験

松原　今回もチャクラに関係した物理的実験、ということなんですが、この実験のポイント、あるいは狙いはどのようなところにあるのでしょうか。

聖者サンジャヤ　そうですね、今までの実験では、チャクラの存在、という点にポイントを絞って実験を進めてきたわけです。その結果が、前回までにご紹介した、例えば温度の変化であるとか、あるいは電気的な変化であったわけです。

松原　なるほど。ところで、今までは、主として眉間にあるアージュニャー・チャクラを使った実験でしたね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい、初めに紹介した温度の変化、チャクラにおける温度の変化の実験におきましては、筋肉の影響等、その他の影響が入りやすいものですから、アージュニャー・チャクラ、つまり筋肉が少なく、観察しやすいチャクラを用いました。

松原　ところで、今回の実験のポイントはどのようなところにあったのでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　前回にはアージュニャー・チャクラを用いた電場の測定の実験を行ないました。このような電気的な実験においては、実験結果に他の要因が入ることが少ないと考えられます。そう考えて今回は、アージュニャー・チャクラの

みではなく、マニプーラ・チャクラ、そしてアナハタ・チャクラについても実験を行なったわけです。

松原　それで、今回はほかのチャクラについても実験をしたわけですね。

聖者サンジャヤ　ええ、そうです。

それでは、実験装置および実験方法について簡単に説明しましょう。それでは、豊田君。

豊田　はい。

実験装置としてはＦＥＴ、つまり電界効果トランジスタをセンサーとして用いました。そして、これによって電場を測定する装置を作りました。この装置のセンサーを被験者のチャクラの上５mmのところにセットし、まず３分間はリラックス状態、次の５分間はチャクラに精神を集中した状態、そして、最後の３分間は再びリラックス状態、といった状態で電場の変化を測定しました。

アナハタ・チャクラの実験

聖者マンジュシュリー・ミトラ　それではまず、胸の中央にあるアナハタ・チャクラの実験結果から説明しましょう。被験者は、クンダリニー・ヨーガの成就者である聖者シリヴァッダ到達光師です。ではグラフを見ていただきましょう。

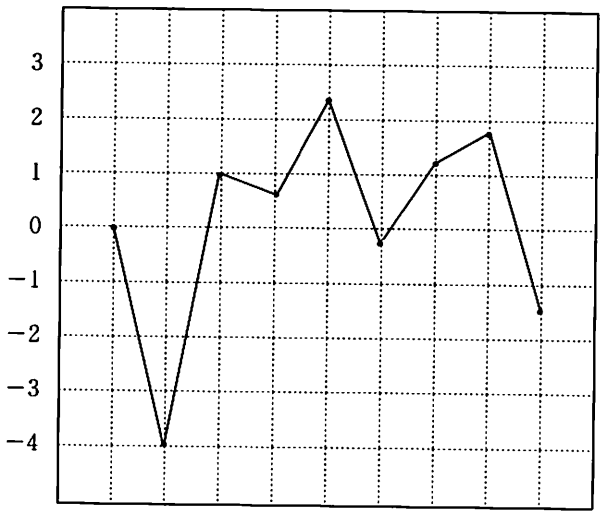
聖者サンジャヤ　図１は、アナハタ・チャクラに集中をしていないときの電場の変化です。

図２は、アナハタ・チャクラに集中したときの電場の変化です。

図１

集中していないとき

図２



集中しているとき

このように、明らかに集中によって、電気的な変化が生じていることがわかります。

松原　たしかに、そうですね。

尊師　このマニプーラ・チャクラとアナハタ・チャクラの特徴というものは、まあ例えばマニプーラ・チャクラの場合、非常に消化力が強くなる。これは太陽神経叢が活発に働くことにより、ふだんは食べなくてもいいが、例えば食べたいときにはどれだけでも食べられるというような機能を生じさせることができると。で、このアナハタ・チャクラは特に真理の実践者にとって大きな意味合いのあるチャクラである。これはクンダリニー・ヨーガを超越し、そしてマハームドラーを達成し、そののち大乗の修行に入ると、このアナハタ・チャクラの中央の点、これが徐々徐々に大きくなり、ドームのような形でどんどん大きくなっていくと。そして体の側面いっぱいに広がるぐらいの大きさの器へと広がっていきます。したがって大乗の成就者のアナハタ・チャクラの測定を今回行なわなかったことは、ちょっと問題があるんではないだろうかね。

豊田　わかりました。それは次の機会にまた、ぜひ実験したいと思います。

尊師　これは霊的にはっきりと感じられるから、電場の問題等にも影響があることは間違いないと思います。

チャクラの大きさと電場の面積

聖者マンジュシュリー・ミトラ　その場合のチャクラの大きさというのは電場が測定される部位の面積と関係づけられるわけ

でしょうか。

尊師　わたしは面積と関係があると思います。そしてこのチャクラが開発されると、他人の心を自由にコントロールできるようになるんだね。つまり、ダイナミックな大きな波形が出、しかもその範囲が広くなるということではないだろうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そうしますと、範囲が大きくなり強度が強くなると。

尊師　そうだね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　しかも物理学における作用というのはすべて相互作用で表わされるんですね。ですから、作用を外に及ぼすことができるということは、その外界の変化を自ら感じることができるということになると思うんですが。

尊師　そうだね、微細な意識状態が生じる、ということだね。で、それをもって他心通とするということだと思います。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　よくわかりました。

他心通

松原　そうですか。ところで、今回の被験者の中には、今のお話にあったような神秘的な体験をした方というのはいらっしゃるんでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。それについては、被験者に体験をインタビューしておりますので、それを聞いてみましょう。

被験者は、クンダリニー・ヨーガの成就者である、聖者キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師です。

キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師体験談

もともと観察力が鋭いほうで、周りの人の心の状態など、例えば、表情とか仕草とかそういう細かい変化から読み取ることが得意だったんですね。ところが、修行を始めてからついた他心通というのはもうそういうレベルじゃないんですよ。そういう細かい観察から理解するんじゃなくて、例えば相手に集中した瞬間、心の状態がヴァイブレーションとして伝わってきたり、あるいは相手の感情がそのまま自分に移ってきたり、調子がいいときなど、相手が心の中でイメージしているものがヴィジョンとして見えたりするんですよ。

これは昨年の２月のことですけど、集中的に修行させていただく機会があったんですね。そのときの経験ですが、このときはすごくエネルギー的にもいい状態で、心も安定していて、本当にいい状態で瞑想修行ができていたんですよ。ところが、あるとき急に心がソワソワしだして、そのうち目の前にケーキのヴィジョンがちらつくようになったんですね。ただ、僕自身は昔から甘いものはダメなほうでしたから、そのときは、これはおかしい、どうしてこんなものが気になるんだろう、本当にこれは自分の煩悩かなって悩んだわけです。

そのとき隣で修行していた人が、ちょうど、深い潜在意識が出てきて煩悩に苦しめられている感じで、隣で修行していて僕も心配していたというか、けっこう気になっていたんですね。で、もしかしてこの人のデータじゃないかって思って、「大丈夫ですか」って、相談に乗る感じで話を聞いてみたんです。そしたら、「いやあもうケーキが頭から離れないで修行にならないんだよ」って

話しだして、その瞬間、ああやっぱりそうかって納得していましたね。

まあ、相手のイメージがヴィジョンとして見えるようなケースは、やはりエネルギー状態とか心の状態とかがいいときにしかあまり体験できませんが、例えばヴァイブレーションで感じたり、感情が移ってきたりなんていう体験は、クンダリニー・ヨーガを成就させていただいてからはもう日常茶飯事というか、一つ一つエピソードを挙げていったらきりがありませんね。それこそ1冊の本になるんじゃないでしょうかね。

＊　＊　＊

尊師　彼の体験どおり、このチャクラが活性化されると、他人の心を読み取ることができるようになります。そして、その読み取る力というものは、先程も述べたとおり、そのチャクラの大きさおよび強さによって、他人の心を読み取る深さ、および他人の心の範囲というものの広がりも出てくるわけです。

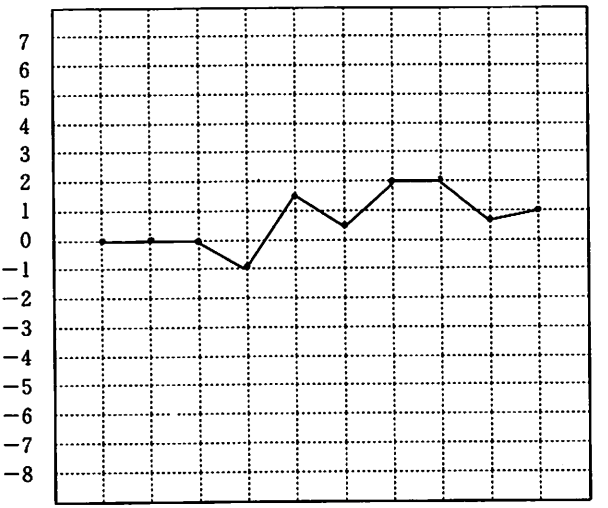
マニプーラ・チャクラの実験

聖者サンジャヤ　では、次にマニプーラ・チャクラについての実験結果をご説明しましょう。図をご覧ください。(被験者は、クンダリニー・ヨーガの成就者である。)

図3は、マニプーラ・チャクラに精神を集中してないときの結果です。

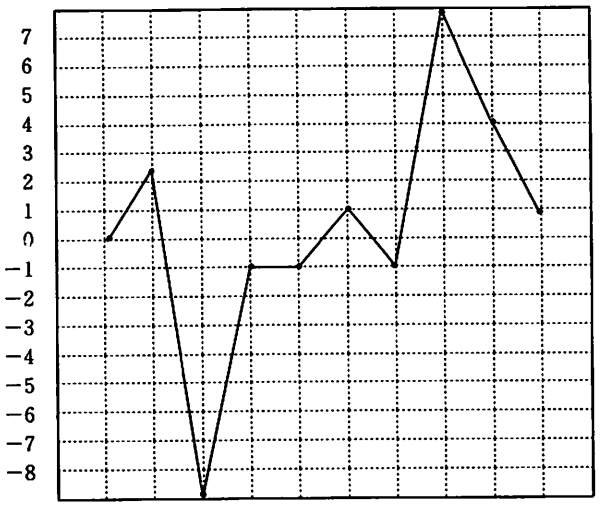
図4は、マニプーラ・チャクラに集中したときの結果です。

図3



集中していないとき

図4



集中しているとき

ご覧のように、このチャクラに関しても、明らかに集中によって電気的な変化が生じていることがわかりますね。

松原　なるほど。

尊師　このマニプーラ・チャクラは先程も述べたとおり太陽神経叢と深い関係があります。そしてこの太陽神経叢が活発に働くことにより消化力が強まり、そして食べたものの分解および吸収が促進されると。そしてそれにより火元素が増大するわけです。この火元素の増大は、16回でも述べたとおり、わたしたちの肉体エネルギーの電荷を高めます。

プラズマ化現象

豊田　ところで、尊師、その「火元素」というのはいったいどういうものなんでしょうか。

尊師　「火元素」というのは、現代物理学でいうところのプラズマ化現象だと思います。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　確かに火そのものもプラズマ状態ですよね。つまり、原子が中性ではなく電離して、全体としては中性を保った状態。そして光を放っている。

豊田　なるほど。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　しかも、そのプラズマというのは、電流を非常によく通すというところも共通していますね。

松原　それにしても、このように生体から電気的なものを、しかも意識的に発することができる、というのは驚きですね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。

マニプーラ・チァクラによる恩恵

聖者マンジュシュリー・ミトラ　もしよろしければ、尊師にマニプーラ・チァクラを開発することによって得られる恩恵といいますか、消化力が強くなる以外にも教えていただけたら幸いなのですが。

尊師　このマニプーラ・チァクラが開発されると、まず病的な胃腸障害等の病気が完全に治るということが第１。次に消化および吸収が盛んになることによって、短眠になると。つまり、肉体のエネルギー状態が改善されることによって、大脳にエネルギーが行き、それによって非常に睡眠が短くなります。そして記憶力・推理力・判断力等が増大すると。それから、修行がもう少し進んでくると、このチァクラは化身のチァクラ、つまり高次元の身体を有するチァクラなわけだけど、ここから変化身というものが出て、それによってバルドを経験できると。で、「バルド」とは何かというと、異次元のつなぎ目の世界を経験できる等々の多くの修行者としてのメリットがあります。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　ありがとうございました。

この実験でもわかるように、わたしたちオウム真理教ではチァクラがどの程度開発されているかを客観的に測定できる方法を手に入れたということがいえると思います。

第2章
チァクラの開発によって わたしはこう変わった

第1章では、チァクラの存在を科学的に証明してきた。

本章では、チァクラが開発されるとどのような能力が得られるのか、ということについて具体的に体験談を挙げていく。今回は、あくまでも能力開発という点に焦点を当て、各チァクラごとに発揮される能力の説明とともに、現実的に活用することができた例を中心にページを割いた。

チァクラが開発されることによって得られる力には、果てしない可能性が存在する。それをわたしたちがうまく活用できれば、もっと偉大な文明を築くことも夢ではないだろう。ここに載っているのはほんの一例であって、皆さんが実際にチァクラを開発することができれば、これ以上の素晴らしい力と至福を得ることも可能だということを覚えておいてもらいたい。

◆ムーラダーラ・チャクラ

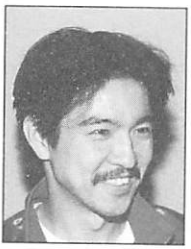
このチャクラが開発されると、体温が上昇して超健康体になり、肉体的疲労や外的条件による病がなくなる。換言すれば、機能的状態を回復させる働きが増大するということになるが、その原理は、

a. 体温を上昇させることにより、肉体内の抗原抗体反応を促進する

b. それ以上の体温上昇により、ガンやウイルス等を生存させなくする

というものである。

このチャクラの開発によって、一般の医学常識から見れば奇跡のような治験例が頻発している。例えば、重症筋無力症という難病にかかり入退院を繰り返していた55歳の女性が、普通に日常生活を送れるまでに回復したりしている。



●ちょっとやそっとじゃ傷つかない体

村山 太郎介　24歳

体が頑丈になりました。

以前、友人にもうめちゃくちゃに殴られたことがありました。見ていた人間が、「殺されるのではないかと思った」というほどやられたましたが、コンクリートで殴られようと、アスファルトに叩きつけられようと、傷一つ負いませんでした。顔をちょっと切っただけですね。病院で診てもらっても、まったく異常がないということでした。

40度くらいの熱を発しても、自分ではそんなに熱が出ているとは認識できないくらい、平気で生活できてしまうことがよくありましたね。なにか

ちょっとふらっとするので、あれって思って、体温を測ったら40度を超えていると。それにもかかわらず、ふだんの意識状態とまったく変わらず生活を送れ、仕事もできたという。（笑）自分でも信じられませんね。

●超健康――心身ともに軽やかに

松村 しづ子（60歳）

入会する前のわたしは非常に体が弱く、いつも寝たり起きたりの生活でした。ちょっと外出すると疲れて寝込み、人混みの中に出ると２、３日起きられない、そういう状態でした。

しかし、オウム真理教に出合って修行を始めたら、今までの体の弱さがまるで嘘のように丈夫になりました。修行は、アーサナやプラーナーヤーマ等の行法、クリヤ・ヨーガをしっかりやり、イニシエーションを多く受け、また何回も、直接尊師から修行上のアドバイスをいただきました。その度ごとに修行が進み、今ではすっかり健康面で自信を持てるようになりました。もう、寝込むようなことはありません。

また、修行を始めて半年で体重が10kg減ってスリムになったというおまけまでありました。

心身ともに本当に軽やかになりました。このような大きな変化を毎日体験していること自体、わたし自身本当に信じられません。感謝の気持ちでいっぱいです。

わたしたちのエネルギーの段階は、ヨーガでは五大エレメントの段階として表現される。修行を始めると、地元素（筋肉組織・骨などの固体成分）・水元素（血液・体液などの液体成分）・火元素（体温・消化の炎など）・風元素（呼吸・人体エネルギー）・空元素（宇宙エネルギー・体腔）という順番でエネルギーは昇華される。第１章のＰart５で述べられていたように、火元素はプラズマ現象として表現でき、この段階で頭のしびれが生じるから、間違いなく肉体内の成分を昇華したかたちでの電荷の発生であると見ることができる。このように、修行上の進歩と体の状態には密接な関係がある。（ｐ97～98参照）下図のガン細胞を消滅することができた山口林造さんは、オウム真理教での修行、そして科学的に分析された五大エレメントの浄化・強化、チャクラの開発の技法を用いた治療によって、見事にその密接な関係を証明したといえる。

写真１

写真２

写真１・２　オウム真理教附属医院で治療を受けた大腸ガン患者、山口林造さんのシンチグラム。治療後は、手術を行なっていないのにもかかわらず、ガン細胞を表わす黒い点が消失しているのがはっきりわかる。

◆スヴァディスターナ・チャクラ

このチャクラは性的なチャクラである。開発されると、テストステロンが人を男性的にし筋力を増大させるように、男性ホルモンや女性ホルモンの働きによって、人を男性的・女性的にする。そして、非常に異性にもてるようになる。

さらに、性的捨断（禁欲）が容易になり、その結果、性的快楽に使用されていたエネルギーが体全体に回って生命活動が活発になり、ものすごいバイタリティーを有することになる。短眠も可能となる。

また、情緒が発達し、情緒的な詩や曲を作る才能が増大する。

●なぜかあちらこちらから異性が集まってきて……

森山　宗一郎　22歳

わたしの場合は、なぜか女性が集まってきてしまうという、不思議で楽しい経験をしました。

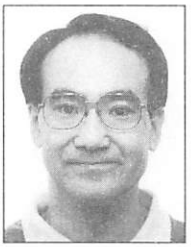
例えば、普通高校3年で理系というとほとんど女性がいないわけですが、自分のときは男女共学のクラスになってしまいました。大学に入ってからも続きました。塾の講師を始めると、近辺の同系統の塾の場合、女性講師はいても1人程度なのに、わたしの所だけ、わたしが講師を始めて1カ月後にはなぜか女性が8人にまで増え、男性のほうが6人と、ぜんぜん逆の状態が形成されてしまったんです。

また、仕事先では、初めは従業員7人中女性は1人でした。秘かに残念だと思っていたところ、営業先がなんと女子大であったということがありました。非常にわたしとしても、びっくりしました。

そして、「話してみたいな」とか、「あ、この人は美人だな」とか、好みだと思った人には必ず相手から話しかけられたり、交際を申し込まれたりました。事はこれにとどまりません。わたしは団地に住んでいたのですが、

そこの女性だけではなく、ぜんぜん自分と関係がない地域の人たちがわたしのところに集まってきたり、憶えていない人からも電話が来たり。年齢層も非常に広くて、しかも皆若い。

本当に驚いてしまいますね。



●短眠・バイタリティー

是永　信幸　43歳

短眠になった。

五根五力セミナー（オウム真理教の修行体系の一環）を始めたら、いつのまにか短眠になっていましたね。以前は7、8時間ぐらい寝ていたのが、今ではだいたい4時間ぐらい。仕事がら、海外に行くことが多いのですが、全然疲れないのです。ほとんど徹夜しても、何ともありません。

●素晴らしい音色を手に入れて

西河　優子　23歳

オウムに入会するまでのわたしは、テクニックばかり追求して、ピアノを弾くにも情緒的なムードを出せず、思いどおりに曲が歌えないということが最大の悩みでした。というのも、いくら音符どおりに弾いても聴く人の心は打てないからでした。

ところが、オウム真理教で修行を進めていくうちに、大きな変化を体験し始めました。

スヴァディスターナ・チャクラが開発されると、情緒が豊かになり、表現力が増すといいますが、そのとおり、ピアノの音色が、とても優しく綺麗な音に変わっていきました。ふと気づくと、自分が弾いてるのではないような、でもこういう音が出したかったのだという音色が出ていて、驚きながらもとても嬉しかったのです。

以前は、5、6時間練習していたものが半分以下の練習時間で、しかも思

いどおりの音色が出せるようになり、これには以前からの先生もびっくりしていました。

また、当時わたしはチェンバロを専攻していましたが、このピアノ以上に繊細な楽器も、すぐクリアすることができました。

この急激な変化は、わずか2、3カ月の間のことでした。チャクラの開発と心の浄化によって、わたしの音楽的なセンスは飛躍的に上がりました。今では余裕を持って、本当に楽しくピアノを弾いています。

◆マニプーラ・チャクラ

このチャクラが開発されると、ここに位置する太陽神経叢の働きが活性化し、食物等の消化および吸収が促進される。その結果、肉体全体の栄養状態が改善され、大脳の働きが良くなる。すなわち、思索力・判断力・記憶力・推理力等が増大される。

1. 病的な胃腸障害等の病気が完全に治る
↓
2. 消化・吸収が盛んになることにより、短眠になる
（つまり、肉体のエネルギー状態が改善されることによって、短眠になる）
↓
3. 記憶力・推理力・判断力が増大
↓
4. （このチャクラは化身のチャクラ、つまり高次元の身体を有するチャクラなので）変化身が出て、それによってバルド（異次元のつなぎ目の世界）を経験できる

また、たいへん食欲がなくなり、１日１回でこの人生を生きることができるようになる。しかし、太陽神経叢が活発に働くことにより消化力は非常に強くなっているため、食べたいときはどれだけでも食べられるというような機能を生じさせられることができる。

●わずか5カ月の受験勉強で東京大学理科1類に合格!

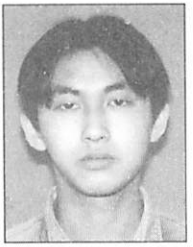
高岡 知己　19歳

ぼくは、今年（1993年）の4月に東京大学に入学しました。しかし、受験のために勉強を始めたのは去年の9月。つまり、わずか5カ月間の受験勉強で、東大に合格することができたのです。しかも、どこの塾にも通わず、去年の12月まではアルバイトをしながらの勉強でした。これだけの勉強で合格できたのは、オウム真理教の修行によって、マニプーラ・チャクラが活性化され、記憶力・思索力・判断力が飛躍的に増大したからにほかなりません。具体的には、

1. オウム真理教のイニシエーションを数多く受けた
2. バクティ・ヨーガを行なうことにより功徳を積み、願望を成就させるエネルギーが強まった
3. 尊師の説法は非常に論理的なので、それを聞き、学ぶことにより、論理的思考が身につき、思索力が高まった。また、真理のデータの記憶修習になり、潜在意識が浄化され、それによって記憶力がよくなったなどが挙げられます。

また、ぼくは受験直前になって風邪をひいてしまったのですが、ガージャ・カラニーやネーティーなどの浄化法（クリヤ・ヨーガ）によっていち早く直すことができ、万全の体制で受験することができました。

これらの体験を通して、ぼくはオウム真理教の修行は非常に効果があり、それを実践することによって多くの恩恵を受けることができるということを確信しました。



●修行によって成績がトップに！

森山　誉之　19歳

高校１年の１学期の終わり、通知表を渡された僕は、27番（クラスの中で）という順位を知り半分あきらめ、「もう、どうでもいいや。このまま底辺を這っていこう」と思っていました。

しかし、２学期に入って「火と水の洗礼」を受けた後、記憶力・集中力が一気に増し、ふだんは勉強せずに遊んでいても、試験前に数日勉強しただけで、なんとクラスでトップに躍り出ることができました。

特に変わった勉強方法をしたわけではなく、僕の場合は教科書で100ページ以上の範囲から、テストに出るだろうと思った所に線を引いただけ。実際にテストを受けてみると、まるで自分の勉強した所だけといっていいほど一致していました。しかも、これが１教科や２教科だけではなく、ほとんどすべての教科において起こったため、自分でも驚く反面、「楽な方法を知ってしまった」と喜んでいました。

付け加えると、僕のいたクラスは学年で１番できる人間が集まっているクラスでした。

●思索力・記憶力・判断力、すべてＯＫ

小山　拓良　20歳

わたしが、東京大学で国際関係論を学んでいた大学２年の秋のことです。ある学生セミナーに参加しました。決して専門分野ではなかったのですが、様々な発想がポンポン浮かび、うまく論理的にまとめることができたのです。総括討論のときにはその中心になっており、最後のほうはわたしがマイクを持ちっぱなしでしゃべり続けている状態だったんですね。そのセミナーが終わった後、１年前にもセミナーに出ていた人から「１年前と比べてかなり進歩したなあ」そういうふうに言われたんです。「意見などもかなり論理的に順序立てられて、しっかりしてきた」と。初めに参加したと

きは、まだ修行はしておらず、このときは始めてまだ2カ月ぐらいでした。しかし、入会直後約1カ月、極限状態といえるほど集中的に修行したので、そのおかげですね。

また、大学のレポートも要領よく文献を集められ、かなり早い時期に仕上げることができるようになりました。また、語学の試験などでも、適当に教科書をパラパラ見ていくだけでもかなり覚えているからスラスラスラスラ解けて、ほかの人たちが「このテスト難しかったなあ」なんてうなっているのを横目で見ながら「なんだ、簡単だったじゃないか」と。そして試験はこのあたりが出るだろうとだいたい予想がつくので、周りがめちゃくちゃあせってやっている中、余裕で準備ができる。実際、テストを受けてみると、だいたいそのとおりに出題されている。そんな感じで、要所要所が押さえられるようになっていますね。

やはり、集中的な修行。これがかなり効いたと思います。

●人には思いつかないアイデアが

金井　涼子　23歳

わたしは美術の先生になろうとして、家政系のデザイン関係の大学に行っていました。修行を始めてからは、アイデアもポンポン浮かぶようになり、特にいい作品が作れるようになりました。また先生からも高い評価を受けるようになり、卒業のころには、各地の教育事務所から引っ張りだこになりました。

●一目見たら忘れない超記憶力

福田　博久　20歳

マニプーラ・チャクラを開発したことで、ずば抜けた記憶力を身につけることができました。

わたしの場合、映像的・視覚的に記憶したものが蘇ってきます。例えば、本の内容を記憶したとき、その本の

ページがまるで目の前にあるように脳裏に浮かんでくるのです。また、すぐに覚えてしまうので、記憶のための努力はしたことがありません。そして、一度会った人の顔・名前・場所は決して忘れることがありません。一日に何十人の人に会おうと関係なく、瞬時に覚えてしまい、絶対に忘れないのです。わたしが、「久しぶりですね」と声をかけると、相手に「だれでしたっけ？」と言われることも度々です。また、あの覚えにくいといわれる電話番号も、一回見ただけで全部覚えてしまいます。決して忘れることがないのが不思議なほどです。

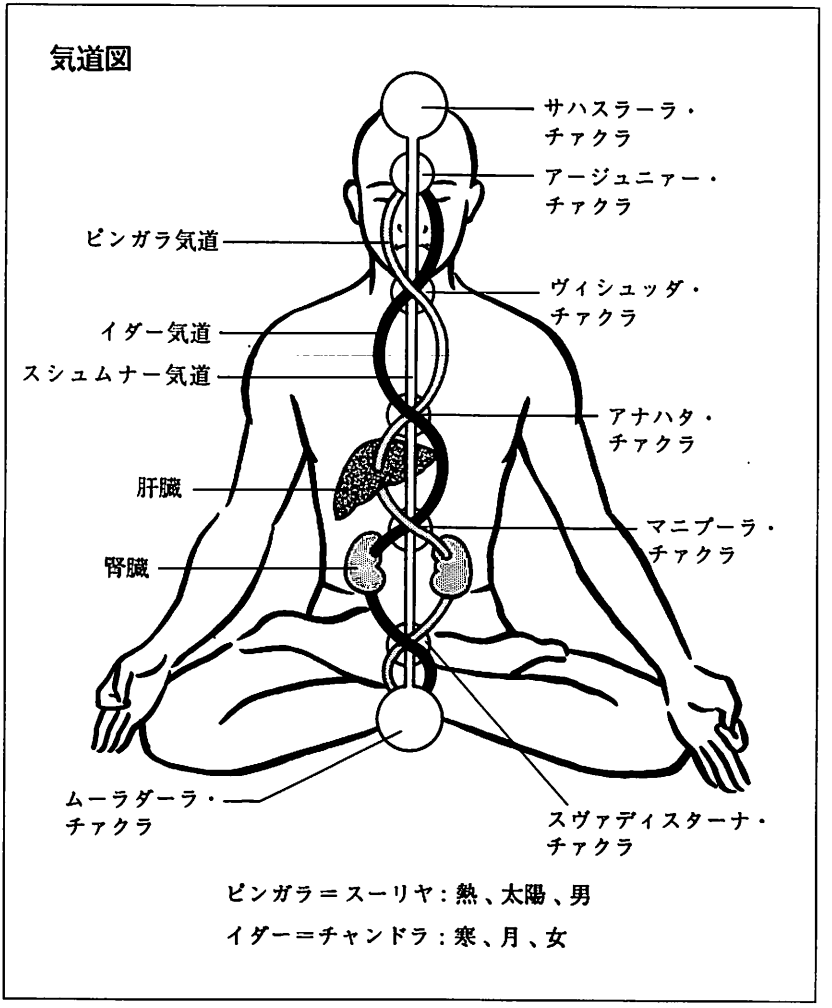
高校のとき、古文の非常に長い文章を、次の時間までに暗記するように言われたことがありました。しかし、わたしは宿題自体を忘れてしまっていて、授業直前の10分間で丸暗記せざるを得ませんでした。ところが、授業時間になると、準備してきたはずの友人はだれ一人として完全に覚えておらず、できたのはわたし一人だけだったのです。

もちろん、テストのときもこの記憶力は非常に役に立ちます。テストなんて、いつもカンニングしているようなものです。なぜなら、目を閉じて、出てくる映像を読めば、答はわかるのですから。記憶するのも速く、一夜漬けでも記憶は鮮明。数学はいつも一夜漬けでしたが、ずっと学年で１番でした。

＊火と水の洗礼

わたしたちの身体には３つの大切なエネルギーの通り道が存在する。これらはイダー管・ピンガラ管・スシュムナー管と呼ばれている。ピンガラ管は尾てい骨の右側から各チァクラを通過して（通過するときは交差する）、最後はアージュニァー・チァクラの右に至る。イダー管は尾てい骨の左側から同じように各チァクラを通過してアージュニァー・チャクラの左へと通っている。中央がスシュムナー管である。ピンガラ管は「火」や「陽」を象徴し、イダー管は「水」「寒」「甘露」を象徴している。修行を始めると、まずピンガラ管が通り、次にイダー管が通る。ピンガラ管が通る過程では、太陽の磁場の影響で霊体は火にさいなまされる。そのため、肉体に

もそれが伝わり、熱病・炎症・視力の低下などが現われ、まさに火に焼かれるような状態になる。反対にイダー管の場合は、月の磁場の影響で、水に浸されるがごとく、冷え・しびれ・無力感・寒さに耐えなければならなくなる。このことを、「火と水の洗礼」という。しかし、期間や状態には、かなり個人差がある。(詳細は、麻原彰晃尊師著 「超能力秘密のカリキュラム」〈オウム出版〉参照)



◆アナハタ・チャクラ

このチャクラが開発されると、大いなる栄誉を受けることができるようになる。また、他人の心を読む力が身につくとともに、多くの人たちの心を動かすことも可能になる。これは、心臓に位置する真我（本当の自己）の働きが、より強く周りに対して影響を与えるようになるからである。

また空中浮揚が起きる。そして、別の身体がより高い世界へ行くようになり、自在に欲望を満足させることができるようになる。

●心を読み、心を動かす

福井 利器　24歳

修行を始めて４カ月目、尊師をぜひ我が京都大学にお招きしたいと思い、講演会の会場を借りる交渉をすることになりました。ところが、その会場を仕切っているのは、左翼運動をしており、宗教を頭から否定している人たちだったのです。実際、電話で尊師の名前を出しただけで、相手の口調が変わるほどでした。それでも、会って話をする約束だけは取り付けたのです。

さて、当日、こちらは１人。相手は10人。まさに四面楚歌ともいうべき雰囲気で交渉は始まりました。ところが、実際に話を始めてみるとどうでしょう。相手の興味、関心のある領域が手に取るようにわかるのです。最初の人と向かい合ったとき、「あっ、この人にはアストラル音楽（異次元の世界の神秘の調べ）だな」、とピンときました。そこでその話題で話してみると、実は瞑想音楽に興味があるとのこと。その他の人についても、興味の傾向がわかりましたから、どんどんこちらのペースで話が進んでいきます。話が進むにつれ、不思議なほど部屋の雰囲気が温かいものに変わって

いきました。そして、帰るときには「またよろしく」といわれるほどになっていました。もちろん、交渉は成功です。

相手の心を読み、そして相手の心を変えていく能力。アナハタ・チャクラが開くことにより身につくこの能力は、交渉力が要求される現代に最も必要な能力ではないかと思います。

●他人の秘密もわかってしまう力

川口　孝　30歳

わたしは大乗ツァンダリー（オウム真理教のイニシエーションの一つ）を受けて、アナハタ・チャクラが開いたようでした。秘儀伝授を受けている間、胸がキリキリと痛く、それから、２カ月ぐらいすると予知夢を見るようになりました。また、人の心がよくわかるようになり、相手の考えていることがヴィジョンで見えたりしました。この体験は非常に多いです。

同じ職場の同僚と、昼休みに話していたときでした。わたしが目をつぶると、パンと牛乳のヴィジョンが見えました。「もしかしたら君はそれが好きで、今食べたいと思ってるんじゃないのか」と聞きました。するとやはりそのとおりであると。

またあるとき、話ながら相手のアージュニァー・チャクラに集中すると、いろんな女性のヴィジョンが見えてきました。それで、「もしかしたら、そういう関係の雑誌を読んでいるんじゃないか」と言ったところ、そのものズバリでした。実を言うとそうであると。

このようなことはいろいろあります。やはりイニシエーションの力はすごいですね。

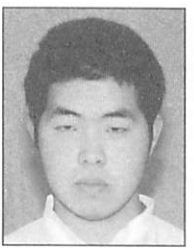
◆ヴィシュッダ・チャクラ

このチャクラが開発されると、天の声を聞き、神々と会話ができる。また、アストラル世界に響く音楽を聴くことができるので、名作曲家になることも夢ではない。

また、地位や権力を手中にできる。

さらに、未来や過去の真実、宇宙の法則や実相が理解できるようになる。

また瞑想中、身体や環境を構成しているカルマ（業）すらコントロールでき、自在に自分自身の状態を変化させることが可能になる。



●事故を予知

聖者スラーダ上流師　26歳

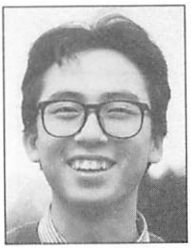
今から２年前のことでした。ある日、瞑想をしていると次のようなヴィジョンが見えました。

場所は、富士山総本部道場の道路。時間は、空が薄暗かったので朝方か夕方のどちらかだと思います。黄色の車と青色の車が衝突事故を起こしていました。そのとき、事故現場付近に緑色の車が止まっていました。

さて、このヴィジョンを見てから約１週間後、果たしてヴィジョンと同じ事故を目撃しました。場所は富士山総本部道場、時間は夕方の７時から８時までの間で、黄色の車が青色の10トントラックに衝突していました。この黄色の乗用車は大破しており、中には40代ぐらいの女性が１人、血を流して倒れていました。青色の10トントラックは道場所有の車で、道場敷地内の駐車場に駐車してあった車でした。この事故は黄色の乗用車が道路をはみ出して、青色の10トントラックに衝突して起きました。そしてさら

に、このときにこの事故に気づいて駆けつけたと思われる緑色の乗用車が事故現場付近に停車していたのでした……。

このように、場所と時間、事故の様子がヴィジョンとまったく一致していました。修行をすればこのように、正確に未来を知ることが可能になるのです。



●美しい声が頭上から降って

瓦吹 英宣　20歳

オウム真理教の修行を始めてからしばらくして、澄んで綺麗なナーダ音をはっきりと聞きました。これを始まりとして、音を聞いたり声を聞いたりする体験が一気に始まりました。その中の一つをお話しましょう。

真夜中でした。そのときわたしは精神的に落ち込んでいて、だれもいない個室で悶々として一人でうずくまっていたのです。そのときに、とても大きく、しかも澄んだ力強い声で、「ほら、しっかりしなきゃ！」という女性の声が頭上から降ってきました。それは、「降ってきた」という表現がピッタリで、その瞬間、わたしの意識が即座に喉のヴィシュッダ・チャクラに固定され、その声が喉にビーンと響き渡りました。わたしは、自分の喉に響く声のエコーにしばらく浸っていましたが、気がつくと今まで自分が悩んでいたことが本当にバカげているような気持ちになりました。外を確認しましたが、一面野原の片田舎で、人の気配もまったくありませんでした。人間の声でないことは確かです。その声の主は、わたしの守護神だったのかもしれません。

約1年後、新しく出版された尊師のご著書を読んでいると、「本当の天耳通は喉と頭上で聴こえてくる」という記述がありました。深く納得するとともに、これからの修行の励みになったことはいうまでもありません。

◆アージュニァー・チァクラ

このチァクラが開発された人は、一言でいえば「神々の要素が強くなった人間」となる。すなわち、この世の願望をすべてかなえることができる。

また、「第三の目」を有すること、つまり、対象を透視する力を得ることができる。透視力にも心のステージによって段階があり、粗雑な意識の人は粗雑なものを、微細な意識の人は微細なもの、例えば人の心の働き等を、さらに微細な意識の人は対象となる人の本質や輪廻転生を含めて視覚的にとらえることができる。

さらに、いかなる光の世界へも移動が自在となる。

◆サハスラーラ・チャクラ

このチャクラは、わたしたちを肉体から解放するためのセンターといえる。開発されると、肉体とは違う別の身体を使えるようになり、肉体から離脱できるようになる。つまり、解脱できるのであり、言葉を換えれば、人間を超越することになる。

最新刊 待望の尊師書き下ろし!

ボーディサットヴァ(菩薩)の状態を脳波理論から解明!

ボーディサットヴァ・スートラ

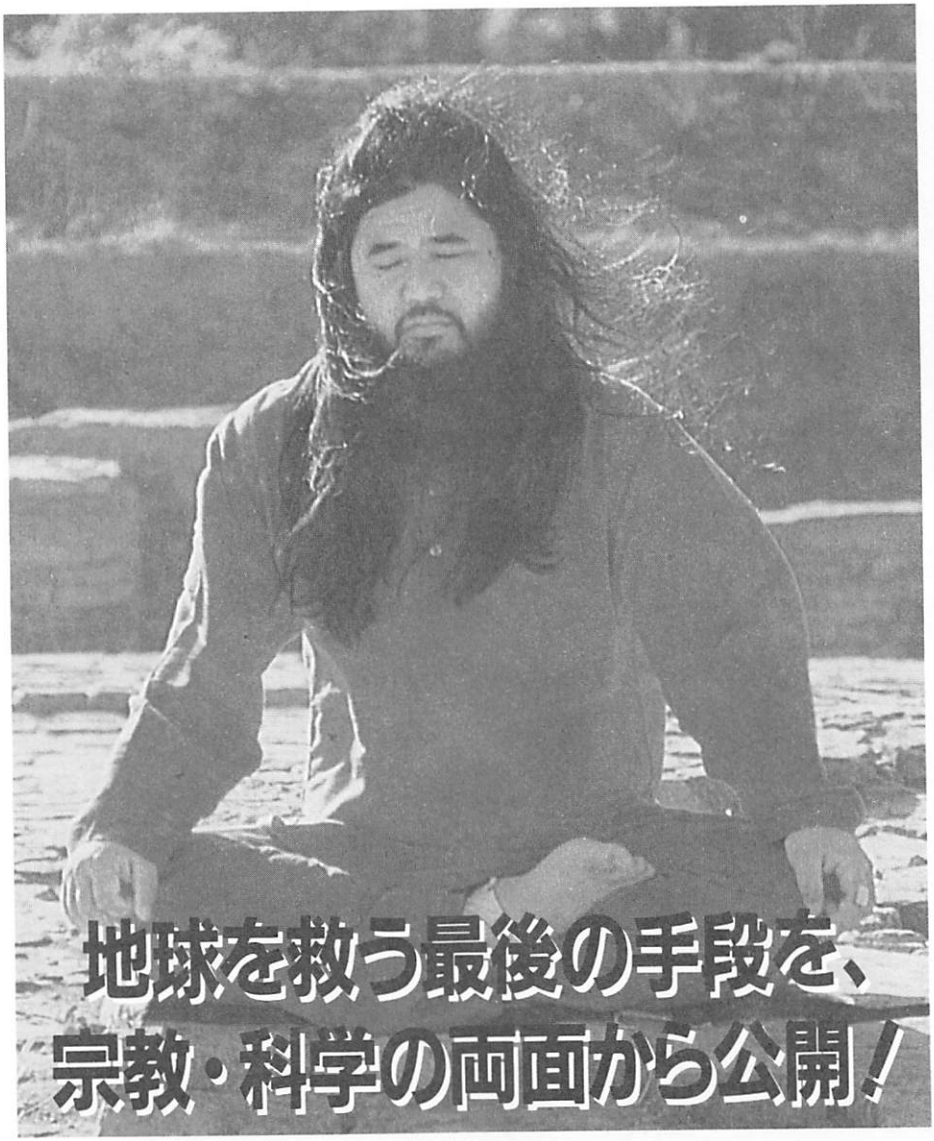
完全他力本願の道を説く

真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著　B6判　1800円

生・老・病・死などの個人的苦悩。エネルギー不足、環境破壊などの世界的危機。山積みする困難を解決するために、今こそ人類は〝欲楽追求・大量消費〟のライフスタイルを一気に転換しなければならない。そんなわたしたちに残された唯一の生き方、それがボーディサットヴァ（菩薩）の道である。

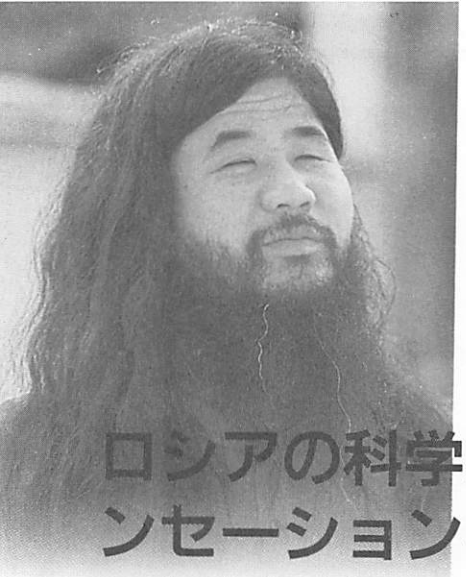
「ボーディサットヴァの道とは、欲界・形状界・非形状界の三つの世界において、何をなせば利益となり、何をなせば不利益となるかということを完全に知る智慧の修行ということになる。」（麻原尊師）

本書では、この偉大なボーディサットヴァに至るまでの精神的ステージを、最先端の脳波理論によって鋭く解明。最終解脱者の脳波が常時停止しているという衝撃的事実を明らかにした。その研究結果をもとに、すべての人をボーディサットヴァの境地へと速やかに導いていく人類初の科学的システムも発表する。



●全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。(定価には消費税が含まれています)

オウム出版　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03 (3439) 6043　　振替：東京2-109325



麻原彰晃の真理探究シリーズ

真理科学技術研究所編
真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師監修

ロシアの科学界・宗教界に一大センセーションを巻き起こした人気テレビ番組『真理探究』が、単行本になっていよいよ日本上陸!!

「死」とは何か？ 「生」とは何か？ そして生死を超えた「解脱者」とは何か？

〝宗教を科学する〟麻原彰晃尊師が、様々な科学的実験によって、人類永遠のナゾを次々に解明！ ここに宗教と科学は合一し、人類は新しい進化の段階を迎えた……。

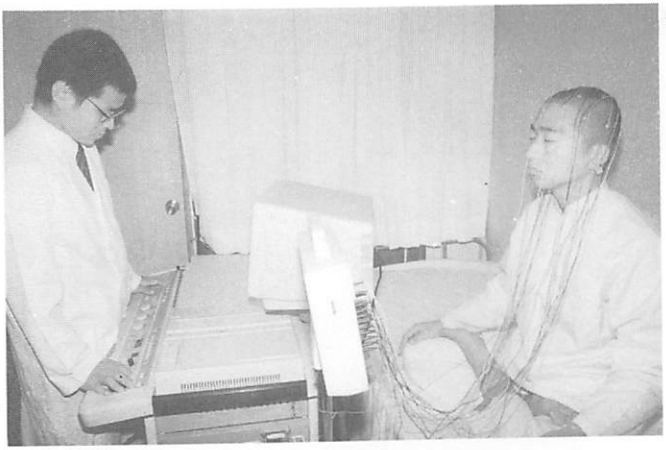
ロシアで大反響を呼んだオウム真理教のテレビ番組『真理探究』が、単行本となってついに登場。

「本書を推薦します」

モスクワ大学 数理学部教授 V.A.イェヴォロフ

『真理探究』はわたしたちに様々な科学的示唆を与え、霊的な人間の進化の可能性を示してくれています。この『真理探究』シリーズの出版によって、多くの人が真理の流れに入り、地球の危機が回避されることを願うばかりです。

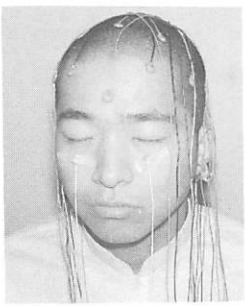
最新刊



NO.1

検証「死」（サマディ）A5判 980円

——人類進化の鍵を握る究極の瞑想状態



死を超越した境地「三昧(サマディ)」を科学的に証明。そのとき修行者が経験する呼吸停止、脳波停止、心臓停止の状態をあらゆるデータによって分析する。果たして、死を超えたとき人間はどうなるのか？従来の科学常識、死生観を根底から覆す衝撃の書。

以後、続刊予定

●全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。（定価には消費税が含まれています）

オウム出版　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL　03(3439)6043　　振替　東京2-109325

あの名著がグレードアップ！

増補改訂版

生死を超える

麻原彰晃尊師の不朽の大ベストセラー『生死を超える』が、新しく増補改訂して登場！

麻原尊師の教えに導かれ、生死を超えて解脱した四十八名の弟子の体験談を、解脱へのプロセスに沿って掲載した。

最聖　麻原彰晃尊師著

B6判　定価1800円

オウム出版　本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598

何千人ものロシア人のクンダリニーを集団覚醒させた
麻原尊師の率いるオウム真理教のセミナー

奇跡はロシアで起きた。何千人ものロシア人が、〝クンダリニー〟の覚醒の印であるダルドリー・シッディ（体が震動する現象）をいっせいに起こし始めたのだ！

クンダリニー、それは強大なパワーと神通力を人間に与える神秘の霊的エネルギー。一生かかっても難しいこのクンダリニーの覚醒を、麻原尊師は大勢の人々に一気にもたらしたのである。

そのとき会場は異次元と化した……。

セミナー体験談

・瞑想中、意識と光の粒が自分に流れてくるような、大きな時の流れのような感覚があり、とても幻想的だった。(T・Rさん　女　36歳)

・クンダリニーが上昇し、頭頂からしびれと快感が下降した。気は上がりっぱなしだった。(T・Mさん　男　20歳)

★セミナーのお知らせ

すべてを知り尽くした最終解脱者・麻原彰晃尊師が、忙しい現代人に最も適したクンダリニー覚醒のための修行法を数多くの技法の中から厳選。あなたも次の2つのセミナーで、その修行法を体験してみませんか？

●無料体験セミナー
呼吸、アーサナ、気功などの初歩的な修行法を紹介し、皆さんに実践していただく無料のセミナーです。気軽にご参加ください。

●80%クンダリニーを覚醒させるセミナー
文字どおり、参加者の80%以上のクンダリニーを覚醒させるセミナーです。

セミナーに興味のある方は添付の「『生死を超える』プレゼント・ワークショップ資料請求カード」の中の「ワークショップの資料をご希望ですか?」の欄のYESに○をつけて、資料をご請求ください。もしくは、下記まで直接お問い合わせください。

お問い合わせ先　TEL 03 - 3148 - 4147　FAX 03 - 3418 - 6794

★『生死を超える』無料プレゼント

クンダリニー・ヨーガのすべてを克明に記した麻原尊師の名著『生死を超える』を、添付のハガキを送ってくださった方に無料でプレゼントいたします。

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『麻原彰晃の真理探究シリーズ』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『麻原彰晃の真理探究シリーズ』読者係」

◆本部・各支部ご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京総本部　03(5467)2745
〒107　東京都港区南青山7-5-12　マハーボーシャビル2・3F
世田谷道場　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
杉並道場 03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
福井支部　0776(26)6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
大阪支部　06(251)4264
〒541　大阪府大阪市中央区久太郎町3-2-15 マルイビル2F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
広島支部　082(264)7252
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
那覇支部　098 (866) 9537
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485(74)8143
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St.#2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, 53121 Bonn, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION）
Horahena, Watte, Angulugaha, Gallo, Sri Lanka
モスクワ支部　7-095-455-95-32
Kindergarten No.468, 32A Petrozavodskaya ul. Moscow, 125475 Russia

麻原彰晃の真理探究シリーズ②
チャクラの科学　能力開発の秘密に迫る！

1994年1月30日初版発行
定　価　910円（本体883円）
監　修　真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師
編　集　真理科学技術研究所
発行者　松本知子
　　石井久子
発行所　株式会社オウム
　　〒154　東京都世田谷区世田谷2－8－17
　　電話　03(3439)6042　　振替　東京2－109325
　　乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

© His Holiness the Master, Shoko Asahara　1994

ISBN4-87142-091-4　C0042　P910E